

一 大戦にかかるわが方方針

1 昭和14年5月8日

地方長官會議における有田外相の訓示要旨

御承知ノ通り最近一年間ニ於キマシテ獨伊樞軸ハ歐洲ニ於テ目覺シイ發展ヲナシタノテアリマシテ昨年三月ニハ獨塊合併ガアリ、同九月ニハ「チエツコ」國內「ズデーテン」地方カ獨逸ニ割譲セラレ、今年一月末ニハ西班牙ニ於テ「フランコ」軍カ「バルセロナ」ヲ陥レテ決定的勝利ヲ占メ、更ニ三月末首都「マドリッド」モ遂ニ開城シ、二ヶ年半ニ互ル内亂モ茲ニ終結ヲ見ルニ至リ、新興西班牙國ハ滿洲國及洪牙利ニ相次イテ三月二十七日防共協定ニ參加シタノテアリマス。他方本年三月初旬ヨリ「チエツコ」問題カ再燃シ「ヒトラー」總統ノ疾風迅雷的行動ニ依ツテ「ボヘミヤ・モラヴィア」兩州ノ獨逸併合トナリ又三月二十二日ニハ獨逸「リツアニア」間ノ條約ニ依ツテ長年ノ懸案デアツタ「メーメル」返還カ實現サレ更ニ引續イテ翌二十三日ニハ獨逸羅馬尼間ニ經濟協定ノ締結ヲ見ルニ至ツタノテアリマス。伊太利モ亦四月六日突如「アルバニヤ」ニ兵ヲ進メテ同國ヲ占領シ之ト同様聯合關係ヲ結ンタノテアリマス。

此ノ如キ急速ナル獨伊ノ進出ニ對抗シテ英佛ハ之カ包圍陣ノ結成ニ乗り出シ「チエンバレン」首相ハ三月三十一日對波蘭援助聲明ヲ行ヒ、更ニ四月十三日ニハ羅馬尼及希臘ニ付キ同様ノ援助聲明ヲ行ツタノテアリマス。更ニ最近ハ蘇聯邦ヲモ之ニ引入レントシテ協商中ノ模様デアリマスカソノ東洋ニ及フト及ハサルト二不拘英蘇ノ提携ハ日本トシテ之ヲ輕視スルコトヲ得ナイノテアリマス。カクシテ東歐及「バルカン」ニ於ケル獨伊對英佛ノ勢力體立ノ關係ハ俄カニ逆睹シ難イモノカアルノテアリマスカ目下ノ處急速ニ事態カ最惡化スルモノトハ考ヘラレナイノテアリマス。

然シテ帝國ト致シマシテハ過去ノ經驗竝ニ今日ノ事態ニ鑑ミ日獨伊防共協定ヲ更ニ一層強化シ、以テ帝國獨自ノ自主的立場ニ立チツツ此ノ緊迫セル國際狀勢ニ對處シテ行ク所存デアリマス。

此ノ如ク歐洲ノ情勢機微ナル時ニ當ツテ四月十四日米國大統領「ルーズベルト」氏カ獨伊兩國首腦ニ親電ヲ送り歐洲ノ平和保障ヲ要請シタコトハ米國カ英佛側ノ肩ヲ持ツヘキコトヲ示唆シタモノテアルトシテ注意ヲ惹イタノテアリマス。尤モ米國政府カ此ノ際此ノ如キ措置ヲ執ツタコトニ付

キマシテハ直接獨伊ニ對スル效果ヲ期待スルモノテハナク、之ニ依ツテ世界ノ輿論ヲ豫メ獨伊ヨリ反撥セシメルト同時ニ多分ニ國內宣傳ノ意味ヲ持つモノテアラウトノ觀察モ行ハレテ居リマス。

帝國ハ滿洲國及新興支那ト相提携シテ東亞ニ於ケル新秩序ヲ結成スルコトカ東亞ノ復興ト繁榮トヲ齎ス所以テアリ又世界平和ヲ實現スル所以テモアルト信シ居ルノテアリマス。此ノ東亞新秩序ノ建設ト云フコトハ實ニ我國肇國ノ大精神ヨリ迸リ出ツル歴史的、民族的使命ノ發現テアリマスカ歐米列強中ニハ或ハソノ在支權益擁護ノ立場ヨリ或ハ又法律論の立場等ヨリ我國ノ行動ヲ非難スルモノカ少クナイノテアリマス然シ之レカ達成ハ如何ナル障害ヲ排シテモ爲サネハナラヌトコロテアリマシテカカル非難ハ我國カ現實ニ東亞ノ新秩序ヲ建設シ、以テソノ道義ニ基ク公正ナルモノナルコトヲ如實ニ示スコトニ依リ之レヲ解消セシムヘキテアルト信スルノテアリマス。

2 昭和14年8月28日

「歐亞局作成の『帝國對歐外交基本方針案』」

帝國對歐外交基本方針案

(十四、八、二十八 歐亞局)

一、波蘭問題ヲ繞ル最近ノ歐洲政情ハ愈々獨伊對英佛ノ對立關係ヲ激化セシメ歐洲ハ今ヤ第二ノ大戰ノ前夜ニアリト云フヘク假令今直チニ戰爭勃發セストスルモ現下ノ不安ナル情勢ハ容易ニ解消スルニ至ラサルヘキ形勢ナリ帝國ハ右ノ如キ歐洲ノ逼迫セル情勢下ニ於テ獨蘇不可侵條約ノ締結ヲ轉機トシ不取敢從來ノ日獨伊防共協定強化交渉ノ全般的取止ヲ決定セルカ此ノ際右政策變更ニ順應シ對歐政策ノ速カナル再檢討、再建立ヲ緊要トス而シテ對歐政策ノ再檢討ハ今ヤ情勢ノ變化ニヨリ帝國カ極東ニ於テ全然自主的ニ世界ノ變局ニ對處シ得ルニ至レルコト及右ハ帝國カ支那事變處理及東亞新秩序ノ建設ニ獨往邁進スル絶好ノ機會タルコトニ出發セサルヘカラス

二、支那事變處理ニ邁進スルニ當リテハ帝國ハ防共ヲ根幹トスル既定ノ東亞新秩序建設方針ノ遂行ヲ眼目トシテ公正不偏第三國トノ關係ヲ調整シ自主的ニ世界ノ變局ニ對處セントス從テ帝國對歐外交ノ基準タルヘキ方針左ノ如シ

甲、防共政策ノ堅持

東亞新秩序ノ建設ニ當リテハ蘇聯ノ東亞攪亂政策就中援蔣政策及「コミンテルン」ヲ通スル破壞政策ヲ挫折セシムヘキコト勿論ナルヲ以テ帝國ハ防共政策ヲ堅持スルノ建前ヲ執ルヘシ

乙、歐洲紛爭不介入

英佛對獨伊ノ對立ハ愈々激化シツツアル處支那事變ノ處理ヲ急務トスル今日帝國ノ歐洲紛爭介入ハ國力ヲ消耗スルノ危險多キニ鑑ミ帝國ハ差シ當リ右歐洲紛爭ニ不介入ノ方針ヲ執リ東亞新秩序建設ノ爲歐洲情勢ヲ利用スルコト

3 昭和14年9月3日

東亞局作成の「對外方針要綱」

對外方針要綱

(昭和十四、九、三 亞)

現下ノ複雑ナル國際政局ニ當面シ帝國ハ獨自ノ立場ニ立チテ歐洲ニ於ケル戦局及新情勢ノ發展ヲ睨ミツツ支那事變ノ

處理ニ向テ邁進シ之カ爲多角的ナル對外政略施策ヲ展開スルモノトス其ノ方針要綱左ノ如シ

第一 歐洲新情勢對處方針

一、歐洲ノ戰爭ニ對シテハ帝國ハ諸般ノ情勢ニシテ明カニ帝國ノ參戰ヲ得策トスルノ時期到來スルニ至ル迄ハ之ニ參加セス交戰國群ノ双方ニ對シ不即不離ノ關係ヲ持續シツツ帝國ノ中立的立場ヲ最モ有效ニ活用シ之ヲ高ク買ハシムル如ク施策スルモノトス

二、前記帝國ノ中立的立場ノ維持ニ關シテハ成ルヘク之ヲ事實上ノ狀態ニ止メ正式ノ宣言又ハ特定國トノ約束ノ形式ヲ執ラサルモノトス

三、前記交戰國群ニ對スル帝國ノ中立的立場ノ運用ニ當リテハ特ニ帝國ノ支那事變處理ニ對スル當該國ノ同調性竝ニ帝國國運ノ發展ニ對スル當該國ノ障礙性ヲ考量ニ入レ適宜按配スルモノトス

第二 支那事變處理方針

一、支那事變處理ニ關スル既定ノ基本方針ハ之ヲ變更セサルモノトス

二、支那事變處理ノ急速化ヲ圖リ此ノ際特ニ支那新中央政

府ノ樹立工作ヲ促進シ之カ成立ノ場合ニ對スル諸般ノ準備ヲ速ニ整フルモノトス

三、歐洲戰局ノ進展等ト睨ミ合セツツ機ヲ失セス支那新政權ヲ指導シテ事變目的ノ達成ニ障害アル支那ノ舊國際秩序(例ヘハ租界及治外法權)ヲ逐次調整セシムルモノトス

第三 主要列國ニ對スル施策方針

一、英國及佛國ニ對シテハ東亞ニ於ケル其ノ政治的權益ノ全面的撤廢ヲ目指シツツ先ツ其ノ援蔣態度ヲ拋棄シ帝國ノ企圖スル東亞新秩序建設ニ對シ同調の態度ヲ執ルヲ餘儀ナクセシムル如ク施策スルモノトス

二、米國ニ對シテハ東亞ノ新事態ヲ認識シ帝國ノ事變處理方針ニ同調シ來ル如ク施策スルト共ニ新通商條約ヲ締結セシムル如ク指導スルモノトス

三、獨國及伊國ニ對シテハ防共協定ノ事實上ノ消滅ニ拘ラス兩國カ世界新秩序ノ建設上帝國ト共通ノ立場ニ在ル客觀的事實ニ着目シ此ノ基礎ニ於テ適度ノ提携ヲ持續スル如ク施策スルモノトス

四、蘇國ニ對シテハ支那事變中兩國關係ノ平靜化ヲ圖リ特

ニ國境ニ於ケル彼我ノ軍事的衝突ノ危險ヲ除去シ且其ノ援蔣政策ヲ拋棄セシムル如ク施策スルモノトシ之カ爲獨國トノ特殊關係ヲ利用スルヲ妨ケサルモノトス

五、蘭國ニ對シテハ蘭領印度方面ニ對スル帝國特殊ノ壓力ヲ利用シツツ特ニ此ノ方面ヨリノ我所要物資ノ獲得ヲ便ナラシムル如ク施策スルモノトス



4 昭和14年9月4日 閣議決定

「歐洲戰爭勃發ニ際シ帝國ノ執ルヘキ態度竝ニ在支交戰國軍隊艦艇ニ對スル措置」

歐洲戰爭勃發ニ際シ帝國ノ執ルヘキ態度竝ニ在支交戰國軍隊艦艇ニ對スル措置

第一、政府方針

歐洲戰爭勃發ニ際シ帝國ハ實質上中立ヲ維持スルモノトス

第二、政府ノ措置

政府ハ英佛ノ對獨宣戰布告ノ公電ニ接シ次第公式ニ中立ノ宣言ヲ行ハサルモ左記要旨ノ聲明ヲ發表ス

記

今次歐洲戰爭勃發ニ際シテハ帝國ハ之ニ介入セス專ラ支那事變ノ解決ニ邁進セントス

第三、外交上ノ措置

一、交戰國大使ヲ招致シ右政府ノ聲明内容ヲ通告スルト共ニ支那ニ於ケル帝國ノ勢力範圍内交戰國軍隊艦艇ノ撤退ヲ勸告ス

交戰國在留人民及財産ノ保護ニ付テハ我方ニ於テ責ニ任スルコトヲ附言ス

二、交戰國ニ對シ援蔣中止若クハ事變ニ關シ嚴正中立ヲ爲スヘキ旨嚴重申入ル

第四、在支各機關ノ措置

一、現地外交領事機關ハ中央ノ外交措置ニ對應シ現地交戰國外交領事機關ニ對シ夫々警備軍ノ撤退又ハ武裝解除ヲ自發的ニ實行セシムル如ク勸告ス

右措置ニ應シ現地作戦軍指揮官ハ交戰國警備軍指揮官ニ對シ夫々右ト同趣旨ノ申入ヲ爲スモノトス其時機ハ別ニ中央ヨリ指示ス

二、交戰國艦艇ニ對シテハ前項ニ準シ措置スルモノトス
三、米國側ニ對シテハ前二項ノ次第ヲ通報スルモノトス

伊國カ參戰セサル場合ニツキ亦同シ

四、維新、臨時政府ヲシテ中立宣言ヲ行ハシム

五、本件勸告ニ應セサル場合ノ武裝解除、抑留等ノ時期及方法ハ別ニ定ム



5 昭和14年9月4日

歐洲狀態に対する日本政府の不介入声明

付記 昭和十四年九月五日

「歐洲狀態ニ對スル帝國政府ノ不介入聲明通告ニ關スル外務省情報部發表」

歐洲狀態ニ對スル帝國政府聲明（九月四日）

今次歐洲戰爭勃發ニ際シテハ帝國ハ之ニ介入セス專ラ支那事變ノ解決ニ邁進セントス。

STATEMENT OF THE PRIME MINISTER.

September 4, 1939.

In the face of the European war that has just broken out, Japan intends not to be involved therein: she will

concentrate her efforts on the settlement of the China Affair.

(付記)

歐洲狀勢ニ對スル帝國政府ノ不介入聲明通告ニ關スル
外務省情報部發表(九月五日)

澤田次官ハ本日午後五時ヨリ順次ニ英國大使、佛國大使、
米國代理大使、獨國大使、伊國大使及波國大使ヲ招致シ右
各國代表者中歐洲戰爭參加ノ交戰國タル英、佛、獨、波ノ
各國代表者ニ對シ夫々歐洲戰爭勃發ニ際シ帝國ノ執ルヘキ
方針ニ付テノ昨四日ノ帝國政府聲明ノ内容ヲ通告スルト共
ニ右方針ニ鑑ミ帝國政府ハ列國ノ支那事變ニ對スル態度乃
至動向ニ付重大ナル關心ヲ有スル次第ヲ申入レ且支那ニ於
テ交戰國トノ間ニ不慮ノ事端ヲ誘發スルノ虞アル原因ヲ除
去スルコトニ付交戰國ノ深甚ナル考慮ヲ促シ又中立國タル
米、伊兩國ノ代表者ニ對シテハ右交戰國代表者ニ對スル申
入ノ次第ヲ通報スル所カアツタ。

6 昭和14年9月11日

條約局第二課作成の「帝國ノ不介入聲明ノ法
律上ノ意義」

帝國ノ不介入聲明ノ法律上ノ意義

昭、一四、九、一一、條約局第二課

法律上ノ見地ヨリスレバ

第一、帝國ノ不介入聲明ハ帝國政府ノ政策ノ表明ニシテ國際
法上ノ所謂中立宣言ニアラズ

第三、帝國ノ國際法上ノ中立義務ハ明治四十五年(一九〇七
年)條約第三號開戰ニ關スル條約第二條ニ依リ英國及佛
國ノ開戰宣言ノ通告ヲ受ケタルトキヨリ發生シ居ルモノ

ニシテ特ニ中立宣言ヲ必要トセザル次第ナリ。

第三、今次帝國ノ立場ハ中立宣言ヲ伴ハザル中立國ノ夫レニ
シテ法律上ハ中立國タルコトニ變リナキモノトス。

編注 日本は開戰に關する條約に對し明治四十年(一九〇七)

十月に署名、同四十四年十一月に批准し、同四十五年

一月に條約第三号として公布した。

7 昭和14年9月25日

欧州戦対策審議委員会幹事会が作成した「對外
施策方針要綱」

付記一 昭和十四年九月八日、欧垂局第三課作成

「新狀勢ト對南方政策案」

二 昭和十四年九月十八日、欧州戦対策審議委員

会幹事会の討議文書

「歐洲戰ヲ契機トスル帝國外交策方針案」

對外施策方針要綱

(一四、九、二五 調査部幹事)

歐洲戰爭ヲ繞ル帝國ノ對外政策ハ東亞新秩序ノ建設ヲ基本
目標トシ、差當リ對外施策ノ重點ヲ次ノ如ク定メ、情勢ノ
變化ニ即應スヘキ方策ニ付テハ別途考究整備スルモノトス
第一 歐洲戰爭對處方針

一、歐洲戰爭ニ對シテハ戰局ノ段階進行シ各般ノ情勢ニシ
テ明カニ帝國ノ參戰ヲ得策トスルノ時期到來スルニ至
ル迄ハ帝國ハ之ニ參加セス局外ニ在リテ戰爭ノ長期化
ヲ誘致スル如ク企圖シツツ帝國ノ中立の立場ヲ最モ有

效ニ活用シ國際情勢ヲ利導シテ支那事變處理ノ鞏化促
進ニ資スルト共ニ南方政策ノ遂行ニ對シ有利ノ形勢ヲ
醸成スル如ク施策スルモノトス

二、帝國ノ中立の立場ノ維持ニ關シテハ成ルヘク之ヲ事實
上ノ狀態ニ止メ正式ノ宣言又ハ特定國トノ約束ノ形式
ヲ執ラサルモノトス

三、帝國ノ中立の立場ノ運用ニ當リテハ特ニ帝國ノ支那事
變處理ニ對スル當該國ノ同調性並ニ帝國國運ノ發展ニ
對スル當該國ノ障礙性等ヲ考量ニ入レ適宜按配スルモ
ノトス

四、歐洲戰爭ニ關聯スル國際情勢ノ利用ニ當リテハ戰局ノ
變化情勢ノ急轉等ヲ注視シテ機ヲ逸セサル様留意スル
ト共ニ戰局不擴大ノ場合ヲモ考慮シテ特ニ焦燥ヲ戒ム
ルモノトス

第二 支那事變對處方針

一、支那事變處理ニ關スル既定ノ基本方針ハ之ヲ變更セザ
ルモノトス

二、支那事變處理ノ鞏化促進ヲ圖リ此ノ際特ニ支那新中央
政府ノ樹立工作ヲ中心トスル政治的方法ノ效果ヲ確實

ナラシムル如ク努ムルト共ニ國際情勢ノ急轉ニ應シ適切ナル政策ヲ實行シ得ル様特ニ迅速ニ日滿支經濟建設ノ實效ヲ舉クルコトニ努力スルモノトス

三、歐洲戰局ノ進展等ト睨ミ合セツツ機ヲ失セス支那新政權ヲ指導シテ事變目的ノ達成ニ障害アル支那ノ舊國際秩序(例ヘハ租界及治外法權)ヲ逐次調整セシムルモノトス但シ其ノ時期及方法ヲ謬ラサル様特ニ留意スルモノトス

第三 主要列國ニ對スル施策方針

一、帝國ハ不動ノ國策トシテ防共ノ方針ハ之ヲ堅持スルモ蘇國ニ對シテハ特ニ支那事變中兩國關係ノ平靜化ヲ圖リ就中國境ノ安全ヲ保持シ且國境ニ於ケル紛爭ハ武力ニ訴フルコトナク平和の折衝ニ依リテ之ヲ解決ヲ圖ル爲所要ノ外交措置ヲ講スルト共ニ諸懸案ノ解決及通商條約ノ締結等ヲ圖リ更ニ其ノ援蔣政策ヲ拋棄セシムル如ク施策スルモノトス

二、米國ニ對シテハ經濟的手段等ニ依リ我事變處理ニ對シ妨害干涉ヲ加ヘ來ルヲ防止シ新通商條約ノ締結ニ應セシムル様努ムルト共ニ實質的ニ我事變處理ニ同調の態

度ヲ執ラシムルコトヲ目途トシテ施策スルモノトシ而シテ之ヲ爲支那ニ於ケル米國ノ經濟的文化的權益及活動ニ對シテハ特ニ友好的ニ取扱ヒ無用ノ刺戟及對日干涉ノ口實ヲ與ヘサル様留意シ且要スレハ「ギヴ、アンド、テイク」ノ趣旨ニ依リ我事變處理ニ伴フ米國ノ在支權益ニ對スル措置ニ關シ一定ノ代償的保障ヲ與フルノ外我公明ナル日支新關係調整方針ノ内容ヲ適宜內報説明スル等ノ方法ニ依リ先方ノ疑惑ヲ解ク如ク所要ノ工作ヲ行フト共ニ一方ニ於テ對日干涉牽制ノ爲中南米諸國ニ對スル施策ヲ利用スルモノトス

尙情勢ノ推移ニ依リ歐洲禍亂ノ太平洋方面ニ波及シ來ルヲ日米共同シテ防止スル爲兩國間ニ一定ノ政治的了解ヲ遂クルコトヲ考慮スルモノトス

三、英國ニ對シテハ帝國ノ中立的立場ノ利用竝ニ其ノ在支權益ニ對スル取扱等ニ依リ之ヲ利導シテ帝國ノ企圖スル東亞新秩序建設ニ對シ逐次同調スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムル如ク施策スルモノトス

支那問題ニ關シ日英間ニ早急ニ一般的協定ヲ締結スルコトハ將來ノ障害トナルノ虞アルニ依リ原則トシテ之

ヲ避クルモ個々ノ具體の問題ニ關シテハ續々解決ヲ圖リ我事變處理乃至東亞新秩序建設ニ資スヘキ一般的政治的了解ノ素地ヲ作ルカ如ク指導スルモノトス

前記支那ニ關スル對英措置ト相俟テ歐洲情勢ノ機微ヲ利用シ英帝國諸地域トノ通商障害ヲ除去シ且特ニ南洋方面ニ對スル我方進出ヲ可能ナラシムル如ク努ムルモノトス

四、佛國ニ對スル施策ハ對英措置ニ準スルモ特ニ之ヲ利用シテ對英措置ヲ容易ナラシムル如ク誘導スルノ考慮ヲ加フルモノトス

情勢ノ推移ニ應シ特ニ佛領印度支那ニ關シ先ツ蔣政權側ニ對スル軍需品輸送ノ停止竝ニ通商關係ノ改善等ニ付我方要望ヲ容レシムル如ク施策スルモノトス

五、獨國及伊國ニ對シテハ防共協定ノ事實上ノ消滅ニ拘ラス兩國カ世界新秩序ノ建設上帝國ト共通ノ立場ニ立チ得ヘキ點ニ着目シ適度ノ提携及友好關係ヲ持續シ特ニ之カ活用ニ努ムルト共ニ日獨伊ノ疎隔ヲ印象付クルカ如キ措置ハ嚴ニ之ヲ慎ムモノトス

六、蘭國ニ對シテハ蘭領印度方面ニ對スル帝國特殊ノ壓力

ヲ利用シツツ我方進出ヲ可能ナラシムル如ク誘導シ差當リ特ニ此ノ方面ヨリノ我所要物資ノ獲得ヲ便ナラシムル如ク施策スルモノトス

七、「タイ」國ニ對シテハ眞ノ獨立完成ヲ支持シ且我方トノ文化的經濟の提携ヲ緊密ナラシムル如ク施策スルト共ニ適當ノ時機ニ於テ一定ノ政治的了解ニ到達スル様誘導スルモノトス

備考

貿易ノ振興竝ニ國防自給圈確立ヲ促進強化スル目的ヲ以テ情勢ヲ利導シ列強トノ經濟關係ヲ調整スルト共ニ一般通商ノ偏在的關係ヲ調節シ特ニ南洋方面ニ對スル施策ヲ重視シ且中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟進出ニ留意スルモノトス

(付記一)

新狀態ト對南方政策案

昭和十四年九月八日 歐亞三課

一、基本政策

歐洲戰爭勃發セル今日ニ於テハ戰爭永引ク程狀態我ニ有

利トナルニ付我方ノ對南方政策トシテハ差當リ英佛、獨伊ノ何レニモ偏セズ交戰各國ヲ利用スル方針ヲ執リ情勢ノ進展ト新東亞建設ノ進行トヲ睨合セツツ各段階ニ應ジテ善處スルヲ可トス依テ當面ノ措置トシテハ我方中立ノ維持及南洋ニ於ケル各國植民地領土尊重ヲ代償トシテ南洋ノ經濟的門戶開放ヲ實行セシムルコトヲ目標トシ左ノ個別政策ヲ時宜ニ適シ且實行可能ト認メラルルモノヨリ逐次實施ス

尙世界情勢ガ今日豫想セラルル以上ニ急變スル場合ハ更ニ積極的ナル政策ヲ樹立實施スル事トス

二、個別政策

(一) 對英政策

我方ノ中立維持ト南洋ニ於ケル英領土ノ尊重ヲ代償トシテ

(イ) 南洋ハ我方ニ於テ地理的、經濟的ニ重大利害關係係有スルコトヲ認メシム

(ロ) 在南洋英植民地ニ於ケル排日的措置ノ撤廢、通商、營業、企業、移民ニ關スル門戶開放ヲ實行セシムル

コト

(例ヘバ新嘉坡ニ於ケル邦人漁業壓迫措置、入國ニ關スル嚴重ナル新措置ノ撤廢、馬來ニ於ケル邦人ノ鐵鑛、滿俺鐵採掘事業等ニ對スル好意的取計、英領「バプア」及「ニウギニア」ニ對スル入國及企業ノ許容等)

(ハ) 英領以外ノ南洋諸國ニ對スル我方ノ合理的經濟進出ヲ^(効)防害セザルコトヲ約セシム

(二) 對佛政策

對英政策ニ同ジ(具體的要求トシテハ例ヘバ佛印及「ニウカレドニア」ニ於ケル邦人ノ鐵及「ニツケル」

鑛採掘事業ニ對スル好意的取計、入國規定ノ緩和ト新規企業ノ許容、差別的關稅ノ撤廢等)(至急實施)

(三) 對「タイ」國政策

對英依存ノ觀念ヲ放棄シテ眞ノ獨立ヲ完成スル様助長シ我方トノ文化的經濟的提携ヲ促進ノ上情勢ニ應ジ領土保全ヲ保障スルト共ニ軍事的、政治的及經濟的提携ヲ強化シ出來得レバ相互援助協定ヲ締結ス(前段至急實施)

(四) 對蘭政策

(イ) 差當り各種排日の措置ノ撤廢ヲ要求シ(例ハ外國人勤勞條例ノ撤廢、南興、南林、「ボルネオ」石油會社、武田規那園等ノ邦人企業ニ對スル好意的取計、戰時中輸入制限措置ノ停止等ヲ要求スルト共ニ我方ノ必要トスル蘭印產物ノ輸出ヲ禁止又ハ制限セザル様要求スルコト)逐次通商、居住、營業、企業、移民ノ自由ヲ認メシムル様工作シ之力爲ニハ來年八月滿期(二月ニ廢棄通告ノ要アリ)トナル仲裁裁判條約ヲ利用シ不可侵條約ノ締結ヲモ考慮ス(前段撤廢要求至急實施)

(ロ) 獨又ハ英佛側ニ於テ和蘭本國ヲ占領セル場合ハ右占領國ニ對シ蘭印ノ處分ニ就テハ發言權ヲ留保スル旨通告スルト同時ニ蘭印ノ獨立ヲ促進ス

(五) 對葡政策

「チモール」ニ於ケル石油其他ノ資源開發許容ヲ要求ス(現ニ要求中)

(六) 對比政策

比島ノ獨立ヲ害スルガ如キ言動ハ一切之ヲ避クルコトトシ米國トノ間ニ比島ノ不可侵條約ヲ締結シ其代償ト

シテ比島ノ排日の措置ヲ撤廢セシムルト共ニ日米通商條約締結ノ促進ニ資ス(成ヘク速カニ實施)

(七) 對獨政策

我南洋委任統治地域領有ノ方針ハ變更セズ

三、備考

(イ) 本案ニ云フ南洋トハ比島、佛印、タイ國、馬來半島、英領北「ボルネオ」、蘭印、葡領「チモール」、濠洲領「パプア」及濠洲委任統治地域「ニウギニア」ヲ指シ「ビルマ」、濠洲及新西蘭ヲ含マズ

(ロ) 「ビルマ」ニ關シ問題トナルハ援蔣「ルート」ナルガ之ハ支那關係ニ於テ英ヲシテ援蔣政策放棄ヲ約束セシムレバ自然解消ス其他「ビルマ」ニハ在留民モ少ク、邦人企業モ殆ンド無ク、官民共左程排日のナラザルヲ以テ現段階ニ於テハ之ヲ本案例中ニ包含セシムル要ナシ(ハ) 濠洲本土及新西蘭ニ就テハ問題多キモ自治領ニシテ英本國トノ關係複雑ニ付之又現段階ニ於テハ之ヲ本案例中ニ包含セシムル要ナシト思考ス

(欄外記入)

杉原東亞二課長殿

乞御檢討

(尙本案ハ歐洲戰對策審議會幹事長ニ手交濟ニ候)

(付記二)

歐洲戰ヲ契機トスル帝國外交策方針案

(一四、九、一八歐洲戰對策審議會幹事會決定)^{編注}

帝國ノ歐洲戰爭對策ハ東亞大陸及南洋諸地域ヲ含ム東亞新秩序(以下廣義ノ東亞新秩序ト稱ス)ノ建設ヲ基本目標トシ差當リ歐洲戰ニ對處スヘキ帝國外交策方針案ヲ次ノ如ク定ム

一、帝國ハ廣義ノ東亞新秩序建設ノ基本方針ニ背反セサル限、中立ノ態度ヲ堅持シ以テ日滿支經濟建設ヲ促進スルコト
二、歐洲戰ニ對シテハ之カ擴大長期化竝英佛側ノ終局的衰滅ヲ企圖スルコト

三、支那事變處理ハ差當リ帝國ノ最重要目標トスルモ常ニ情勢ノ變化ニ注意シ南方進出ノ機ヲ逸セサルコト

四、支那新中央政府成立ノ上ハ成ルヘク速カニ日滿支三國間ニ東亞新秩序建設綱領ヲ宣示セル基本盟約ヲ締結スルト

共ニ右綱領ノ精神ヲ敷衍セル三國共同ノ聲明ヲ發シ而シテ右聲明中特ニ東亞諸民族ノ解放ヲ力説シ以テ日滿支將來ノ行動ノ基礎タラシムルト共ニ三國國民ニ對シ其ノ趨クヘキトコロヲ悟得セシムルコト

五、英佛ニ對シテハ帝國ノ中立ヲ好餌トシ且兩國ノ帝國獨側參戰憂慮ヲ利用シ適宜支那及南洋ニ於ケル政治的諸權益ノ撤廢、世界各地ニ有スル經濟利益ノ供與ヲ行ハシムル樣誘導スルモ差當リ帝國將來ノ行動ヲ制限セラルルカ如キ約定ヲナササルコト

六、獨伊側ニ對シテハ長期戰爭遂行ノ志氣ヲ振起セシムル樣親善關係ノ維持ニ努ムルコト

七、米國ニ對シテハ毅然タル態度ヲ持シ以テ對日感ノ是正ヲ計リ通商關係ヲ調整スヘク、之カ爲廣義ノ東亞新秩序建設ニ支障ナキ範圍ニ於テ對價ヲ提供シ國交ノ調整ニ努ムルコト、但シ米國參戰ノ場合及對日經濟壓迫ノ場合ニ處スヘキ萬全ノ對策ヲ講シ置クコト

八、蘇聯ニ對シテハ防共ノ政策ヲ堅持スルモ懸案解決通商取極、國境紛爭處理及確定委員會設置ノ協定等ヲ締結シ速カニ國交調整ヲ行ヒ蘇聯カ眞ニ支那ヨリ手ヲ引クニ於テ

ハ不可侵條約締結ヲ妨ケサルコト

但シ米蘇兩國ノ反日的連繫ハ之ヲ極力妨害スルノ方策ヲ講スルコト

六、「タイ」國ニ對シテハ政治的經濟的連絡ヲ實現スル樣誘導スルコト

七、英印、蘭印、佛印等ニ對シテハ出來得ル限り政治經濟文化工作ニ依リ南方進出ノ準備ニ萬全ヲ期スルコト

編 注 「決定」の部分に「ニアラス」との書き込みあり。

8 昭和14年10月2日

地方長官會議における野村外相の談話要旨

最近ニ於ケル國際狀勢竝ニ帝國政府ノ外交方針ニ付御説明致シマス。去ル五月ノ地方長官會議ニ於キマシテ有田外務大臣ヨリ説明致シマシタ通り政府ハ日獨伊防共協定ヲ強化スルノ方針ヲ採リ獨伊兩國ト折衝中デアリマシタ處其ノ後歐洲ノ狀勢ハ「ダンチヒ」問題ヲ廻ツテ急轉シ八月二十四日獨蘇兩國間ニ不可侵協定ノ締結ヲ見ルニ至ツタ爲メ本件

交渉ハ之ヲ打切ルコトト致シマシタ。

歐洲ニ於ケル狀勢ハ獨蘇不可侵協定ノ締結ヲ見テヨリ最惡化シ八月三十一日^(九月一日)獨波兩軍間ニ戰鬭カ開始セラレマシタカ

越エテ九月三日ニハ英佛兩國カソノ波蘭ニ對スル約束ニ從ヒマシテ何レモ對獨宣戰ヲ布告シタノデアリマス。獨逸軍ハ破竹ノ勢ヲ以テ旬日ヲ出テスシテ波蘭ノ大部ヲ席捲シタノデアリマス。九月十七日蘇聯ハ突如兵ヲ波蘭ニ入レテ無血ノ裡ニ其東部地方ヲ占據シテ波蘭政府首腦部ハ國外ニ逃亡スルニ至ツタノデアリマス。右蘇聯ノ波蘭侵入ハ獨逸トノ間ニ事前ニ了解ヲ遂ケタ結果デアルト見ラレ獨逸軍ハ蘇聯軍ノ進軍ニ連レテ漸次後退シ今ヤ蘇聯軍ハ「レンベルグ」附近ノ石油地帶ヲ含ム波蘭全領域ノ約半ヲ占領スルニ至ツタノデアリマス。九月二十九日^(二十八日)ニハ莫斯科ニ於テ獨蘇兩國間ニ新國境劃定ニ關スル協定カ調印セラレマシタ。思フニ今回ノ歐洲ニ於ケル戰爭ハソノ由來スル所カ極メテ深刻デアリマシテソノ前途ハ之ヲ逆睹スルコト困難デアリマス。尤モ前ノ歐洲大戰ノ際トハ多少趣ヲ異ニシ武力戰タルヨリモ寧ろ外交戰、經濟戰、思想戰タルノ性質ヲヨリ

多ク含ムモノテアルト思ハレマス。

帝國政府ハ曩ニ英佛ノ對獨開戰ノ報ニ接シマスルヤ不取敢「今次歐洲戰爭勃發ニ際シテハ帝國ハ之ニ介入セス專ラ支那事變ノ解決ニ邁進セントス」トノ方針ヲ決定シ九月四日之ヲ中外ニ闡明致シマシタ。御承知ノ通り第三國間ニ戰爭狀態カ發生スル場合ニハ之ニ參加シナイ國ハ自動的ニ國際法上ノ中立ノ權利義務ヲ享有負擔スルノテアリマシテ敢テ中立ノ宣言ノ有無ヲ條件トスルモノテナイノテアリマス。從テ九月四日ノ政府聲明ハ或ル意味ニ於キマシテハ我國ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ヲ表現シタモノト申スヘク、斯ノ如キ表明ノ方法ニ依リマシタ所以ハ帝國ノ政策カ飽迄支那事變ノ解決ヲ基調トスルモノテアリ、從テ其ノ對外政策、第三國ニ對スル態度ハ此ノ基調ニ依リ定メラルヘキ意味ヲ含蓄セシメタモノテアリマス。

政府ト致シマシテハ事變處理ノ既定方針ニ則リ歐洲情勢ヲモ十分考慮ノ上多角的、綜合的對外政策ヲ實行シ以テ現下ノ非常時局ニ對處シテ行キタイト思フノテアリマス。

各般ノ情報ヲ綜合致シマスルニ重慶政府ノ困窮ハ益々加重シツツアリ、ソノ財政ノ逼迫ハ法幣ノ下落ニ依ツテモ十分

窺知サレ得ルノテアリマス。

思フニ蔣介石政權カ客年重慶ニ逃避シテ以來今日ニ至ル迄猶其ノ餘喘ヲ保ツ所以ノモノハ主トシテ第三國ノ物的、心的援助ニ依ルモノト認メラレルノテアリマス。我國ト致シマシテハ支那ニ於ケル新中央政府樹立工作ヲ援助致シマスルト同時ニ他面蔣政權ヲ尙ホ存續セシムル外部原因タル之等第三國ノ援助ヲ除去セシムル爲ノ方策ヲ講究スルコトカ必要テアルノテアリマス。

籲ツテ何故第三國カ依然有形無形ノ援蔣ヲ繼續シ以テ我方ニ對シ直接間接ノ妨害ヲ爲シ來ツタノテアルカト考ヘマサルニ其ノ最モ重大ナ理由ノ一ハ蔣政權ノ倒潰ト共ニ之等諸國ノ在支權益カ所謂「東亞新秩序」ノ旗幟ノ下ニ一掃サレルノテハナイカト云フ懸念ニ在ルモノノ様テアリマス。元來我國カ支那ニ求メル所ハ善隣友好ノ原則ニ基キ日支間ノ緊密ナル政治的、經濟的提携ヲ爲スニアリ、支那ノ門戸ヲ閉鎖シ第三國ノ經濟的活動ヲ排除スル如キ考ヘハ全ク之ヲ持ツテ居ラナイノテアリマス。此ノ點ニ關シマシテハ從來共第三國ノ杞憂ヲ解消スヘク努メ來ツタノテアリマスカ今後ハ一層如實ニ之ヲ說示シ以テ第三國ノ援蔣態度ヲ拋棄セ

シムルヤウ誘導スル必要カアラウト考ヘラレマス。

英國トノ關係ニ付キマシテハ去ル七月東京ニ於テ所謂日英會談ヲ行ツタノテアリマスカ右會談ノ結果英國ハ支那ニ於ケル我軍ノ勢力下ニ在ル地域ニ於テ敵ヲ利シ我ヲ害スル如キ措置ヲ控制スヘキ旨ノ原則ヲ承認シタノテアリマスカ、天津租界ニ於ケル具體的問題ノ處理ニ付キマシテハ遂ニ我方ノ要求ニ同意スルニ至ラス物別レトナツタノテアリマス。米國ニ對シマシテハ同國ニ於キマシテ東亞新秩序建設ニ關スル我方ノ眞意ヲ充分理解スルニ至ル様今後共一層ノ努力ヲ續ケタイト思ツテ居リマス。

蘇聯トノ關係ニ付キマシテハ滿蒙間ノ所謂「ノモンハン」事件ニ關シマシテ莫斯科ニ於テ交渉致シマシテ結果九月十五日東郷大使「モロトフ」外務人民委員間ニ停戰ニ關スル合意カ成立致シマシタ。政府ト致シマシテハ今後共日蘇間ノ懸案ハ逐次之カ解決ヲ計リタイ所存テアリマス。

就テハ皆様ニ於カレマシテモ何卒政府ノ意ノアル所ヲ體セラレ輿論ノ御指導ニ當ラレンコトヲ切望致ス次第デアリマス。

9 昭和14年10月4日

谷外務次官作成の「歐洲戰爭ニ伴フ當面ノ對外施策」

歐洲戰爭ニ伴フ當面ノ對外施策

方針

(一四、一〇、四)

帝國ハ歐洲戰爭ニ對シ中立的態度ヲ維持シ國際情勢ヲ利導シテ既定方針ニ基ク支那事變處理ニ邁進スルト共ニ國防力ノ強化及財政經濟力ノ充實ヲ計リ變轉極リナキ國際政局ニ對處シ自主豁達萬遺算ナキヲ期ス

今次戰爭ノ特殊性ニ鑑ミ施策上特ニ焦燥ヲ戒ム

要領

一、支那事變ノ處理ハ既定方針ニ依ル

二、「ソ」ノ政策ハ時々急角度ノ轉向ヲ爲スコトアリ且其赤

化政策ハ徹底セルモノアリ此間ニ處シ警戒ヲ怠ラサルモ

此ノ際新ニ「ソ」關係ノ平靜化ニ努ム之カ爲日「ソ」

直接交渉ニ依ルヲ本則トスルモ獨ノ仲介ヲモ利用スルコ

トアリ

イ、國交平靜化ノ爲ニハ一般國境問題解決、懸案解決、通商協定締結等ヲ考慮ス

ロ、一般國境問題解決ノ爲ニハ日滿ソ蒙間ニ於テ國境ノ安全ヲ尊重シ國境紛爭ハ武力ニ訴フルコトナク平和的折衝ニ依リテ之ヲ解決スルノ趣旨ニ於テ國境紛爭處理及國境劃定ノ兩委員會ノ設置ヲ企圖ス

ハ、不侵略條約ハ差當リ之ヲ締結スル意志ナキモ先方ヨリ提議アリタル場合ニハ之ヲ取扱フコトアリ

三、英國ニ對シテハ彼ヲシテ我事變處理ニ同調協力セシムルコトヲ主眼トシ之カ施策ヲ重視ス此際特ニ米國トノ不可分關係ニ留意ス

支那ニ於テハ彼ヨリ協調ヲ求メ來ル場合ニ在リテハ之ヲ利導シ然ラサルニ於テハ歐洲情勢ヲ利用スル強硬施策ト其權益ニ對スル措置トニ依リ之ヲ善導シテ我ニ同調協力スルヲ止ムヲ得サルニ至ラシム、具体案ニ就テハ別ニ研究ス

天津問題ニ關スル交渉再開等ノ場合努メテ之ヲ事變處理一般問題ニ關スル交渉ニ發展セシムル如ク之ヲ誘致ス
以上ト共ニ帝國ノ支那ニ於ケル對英措置ト相俟ツテ歐洲

情勢ノ機微ヲ利用シ英屬領竝ニ南洋方面ニ於ケル我貿易、通商ニ對スル障礙ヲ除去スルニ努ム

四、佛國ニ對シテハ英ニ準スルモ特ニ之ヲ利用シテ對英措置ヲ容易ナラシムル如ク施策スルノ考慮ヲ加フ
情勢ノ推移ニ應シ佛印ニ關シ左ノ件ヲ要求ス
イ、援蔣及抗日援助行爲ノ放棄

之カ爲佛印ヲ通スル重慶側ニ對スル軍需品ノ輸送監視ニ關シ所要ノ取極メ設定ヲ提議ス

ロ、平等互惠ノ原則ニ基ク通商條約ノ改訂

ハ、情況ニ依リ事變處理ノ爲我措置ニ對スル便益供與

之カ爲要スレハ佛印ノ安全ヲ保障スルコトアリ

五、米國ニ對シテハ對日干涉ノ口實ヲ與フルコトヲ避クルト共ニ極東ノ新事態ニ對スル認識ヲ改メシメ兩國協調太平洋ノ平和ヲ維持スルヲ基調トスルモ現狀ハ兩國間多大ノ懸隔アリ種々ノ形勢ニ對スル施策ヲ準備ス

イ、在支權益ニ對シテハ適宜友好的ニ取扱ヒ特ニ無用ノ刺激ヲ避クルコトニ留意ス

之カ爲在支米人ノ保護、通商旅行ノ制限緩和、懸案ノ迅速解決等ニ關シ徹底促進ヲ企ル

ロ、在支交戦國警備權益等ノ米國移管ニ關シテハ之カ阻止是正ニ努ム

但シ之カ爲強制措置ニ出ツルコトハ慎ム

ハ、事變處理ニ關シ支那ニ於ケル米ノ活動及權益ニ對スル措置ニ關スル帝國ノ意向ヲ明示シ我ニ同調セシムルニ努ムルト共ニ新通商條約ノ締結促進ヲ企圖ス
（歐戰中）
之カ爲要スレハ有力ナル經濟使節ヲ影響ス

ニ、比島ニ對スル米國ノ不安ヲ除去シ同島トノ友好的經濟的關係ノ擴充ニ努ム

六、獨伊ニ對シテハ依然友好關係ヲ保持シ特ニ之カ活用ニ努ムルト共ニ獨伊ノ疎隔ヲ印象付クルカ如キ措置ハ嚴ニ之ヲ慎ム

七、貿易ノ振興並ニ國防自給圈確立ヲ促進強化スル目的ヲ以テ情勢ヲ利導シ列強トノ經濟關係ヲ調整スルト共ニ一般通商ノ偏在的關係ヲ調節シ特ニ南洋方面ニ對スル施策ヲ重視ス

イ、蘭印ニ於ケル通商協定ノ改正及企業開發ニ關スル制限ヲ緩和スル爲和蘭トノ交渉ヲ開始スルニ努ム之カ爲其安全保障ヲ約スルコトアルヲ考慮ス

ロ、タイ國ニ對シテハ相互親善關係ヲ助長スルト共ニ貿易振興並ニ重要資源ノ取得利用ヲ企ル

之カ爲要スレハ不可侵ヲ約スルコトアリ

ハ、中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟進出ヲ促進ス

備考

戰局ノ擴大狀況ノ變化等ニヨリ更ニ施策ヲ研究スルモノトス

10 昭和14年10月20日

海軍作成の「歐洲戰爭ニ伴フ當面ノ對外施策」

（昭一四、一〇、二一〇）

歐洲戰爭ニ伴フ當面ノ對外施策

方針

新東亞建設ノ國策ニ遵由シ歐洲戰爭ニ不介入對外自主不偏ノ態度ヲ持シ統一貫セル方針ノ下ニ國際情勢ヲ利導シテ活潑ナル多角的外交ヲ展開ス其ノ要綱左ノ如シ

（一）當面ノ施策ハ事變速決ヲ期シ第三國ノ反日援蔣態度ノ放棄帝國ニ對スル同調協力ノ招來ヲ主眼トス

(二)支那事變處理ニ關スル我カ基本方針竝ニ帝國永遠ノ發展ニ對シ障礙トナラサル限リ努メテ第三國トノ友好協調ヲ促進ス

(三)機宜帝國ノ對支處理具體策ヲ中外ニ宣明シ我要求ガ公正妥當且死活的ノモノナルヲ認識セシム

(四)第三國トノ衝突ハ之ヲ回避シ事端發生ノ虞アル正面ニ對シテハ緩和和工作ヲ行フ

(五)第三國ニ對シテハ自主不偏ヲ本則トスルモ施策上帝國ノ事變處理ニ同調シ將來ノ國運進展ヲ阻害セザル諸國ニ對シテハ進デ之ト協調シ右ニ反スル諸國ノ干涉壓迫極減ニ資スル如ク留意ス

(六)歐洲戰爭ニ伴フ新經濟情勢ヲ利シ帝國ヲ中心トスル國防經濟國^{國カ}ノ強化ヲ圖ル

(七)國際政局ノ複雜且浮動性ニ鑑ミ施策上特ニ焦燥ヲ戒ム

要領

一、支那事變ノ處理ニ關シテハ既定方針ニ依ル具體策ハ別ニ定ム

二、「ソ」ノ政策ハ時ニ急角度ノ轉向ヲ爲スコトアリ且其ノ赤化政策ハ徹底セルモノアリ此ノ間ニ處シ警戒ヲ怠ラザ

ルモ此ノ際特ニ日「ソ」關係ノ平靜化ニ努ム之ガ爲日「ソ」直接交渉ニ依ルヲ本則トスルモ獨ノ仲介ヲモ利用スルコトアリ

(イ)國交平靜化ノ爲ニハ一般國境問題解決、通商協定締結、漁業基本條約北樺太利權(情況ニ依リ北樺太ノ買收)等ノ懸案解決ヲ考慮ス

(ロ)一般國境問題解決ノ爲ニハ日滿「ソ」蒙間ニ於テ國境ノ安全ヲ尊重シ國境紛爭ハ武力ニ訴フルコトナク平和的折衝ニ依リテ之ヲ解決スルノ趣旨ニ於テ國境紛爭處理及國境劃定ノ兩委員會ノ設置ヲ企圖ス

(ハ)不侵略條約ハ差當リ進デ之ヲ締結セザルコトトス

三、英國ニ對シテハ彼ヲシテ我ガ事變處理ニ同調協力セシムルヲ主眼トシ之ガ施策ノ重點ハ支那ニ於ケル我政治的優越ヲ確認セシムルト共ニ彼ノ正當ナル經濟活動ハ之ヲ容認シ且我方ニテ積極的ニ之ヲ利用スルニ在リ此ノ際特ニ英米不可分關係ニ留意ス

(イ)我ガ對支策ヲ阻礙セザル限リ其ノ在支權益ニ對シテハ特ニ差別的壓迫の取扱ヲ慎ムト共ニ歐洲情勢竝ニ彼ノ實利主義外交ヲ逆用シ以テ我ニ同調協力スルノ已ムヲ

得ザルニ至ラシム

(ロ) 天津問題ニ關スル交渉再開ノ機運ヲ促進シ之ヲ事變處理一般問題ニ關スル交渉ニ發展セシムル如ク誘導ス

(ハ) 歐洲情勢ノ機微ヲ利用シ英屬領ニ於ケル我貿易通商ニ對スル障礙ヲ除去シ進デ南方地域ニ於ケル我經濟發展ニ對スル善意的協力ヲ認メシム

(ニ) 日英利害關係ノ將來ニ鑑ミ對英折衝ニ當リテハ彼ノ功(巧カ)妙老獯ナル外交ニ眩惑サレ拔差ナラヌ破目ニ陷ラザル様特ニ慎重對處ス

四、佛國ニ對シテハ英ニ準スルモ特ニ之ヲ利用シテ對英措置ヲ容易ナラシムル如ク施策スルノ考慮ヲ加フ
情勢ノ推移ニ應ジ佛印ニ對シ左ノ件ヲ要求ス

(イ) 援蔣及抗日援助行為ノ抛棄

之カ爲佛印ヲ通スル重慶側ニ對スル軍需品ノ輸送監視ニ關シ所要ノ取極メ設定ヲ提議ス

(ロ) 平等互惠ノ原則ニ基ク通商條約ノ改訂

(ハ) 佛領印度支那及「ニューカレドニア」ニ於ケル經濟開發ニ對スル日佛協力

(ニ) 情況ニ依リ事變處理ノ爲我措置ニ對スル便益供與

之カ爲要スレハ佛印ノ安全ヲ保障スルコトアリ

五、米國ニ對シテハ速ニ米國ノ反日援蔣態度ヲ是正シ兩國ノ世界ニ於ケル特殊地位ニ對スル相互の理解尊重竝ニ經濟的依存性確認ヲ基調トスル友好親善關係ノ確立増進ヲ圖ル但シ現狀ハ兩國間多大ノ懸隔アリ種々ノ形勢ニ對スル對策ヲ準備ス

(イ) 在支權益ニ對シテハ適宜友好的ニ取扱ヒ特ニ無用ノ刺戟ヲ避クルコトニ留意ス

之カ爲在支米人ノ保護、通商旅行ノ制限緩和、懸案ノ迅速解決等ニ關シ徹底促進ヲ圖ル

(ロ) 帝國ノ事變處理ヲ阻害セザル限り支那ニ於ケル合法的經濟活動ハ阻止セズ

(ハ) 在支交戰國警備權益等ノ米國移管ニ關シテハ之カ阻止是正ニ努ム

(ニ) 事變處理ニ關シ支那ニ於ケル米ノ活動及權益ニ對スル措置ニ關スル帝國ノ意向ヲ明示シ我ニ同調セシムルニ努ムルト共ニ新通商條約ノ締結促進ヲ企圖ス

(ホ) 要スレバ比島ニ對スル米國ノ不安ヲ除去シ同島トノ友交的經濟的關係ノ擴充ニ努ム

六、獨伊ニ對シテハ依然友好關係ヲ保持シ之ガ活用ニ努ム但シ之ガ爲英米ヲシテ著シク反日的ナラシムルガ如キコトナカラシムルヲ要ス

七、貿易ノ振興竝ニ國防自給圈確立ヲ促進強化スル目的ヲ以テ情勢ヲ利導シ列強トノ經濟關係ヲ調整スルト共ニ特ニ南洋方面ニ對スル施策ヲ重視ス

(イ) 蘭印ニ於ケル通商協定ノ改正及企業開發ニ關スル制限ヲ緩和スル爲和蘭トノ交渉ヲ開始スルニ努ム之カ爲其ノ安全保障ヲ約スルコトアルヲ考慮ス

(ロ) 「タイ」國ニ對シテハ相互親善關係ヲ助長スルト共ニ貿易振興竝ニ重要資源ノ取得利用ヲ企ル之カ爲要スレハ不可侵ヲ約スルコトアリ

(ハ) 中南米及西南亞細亞方面ニ對シ我經濟力ノ發展ニ照應スル着實經濟進出ヲ促進ス

備考(イ) 要スレバ更ニ對象別ニ具休案ヲ策定ス

(ロ) 戦局ノ擴大狀況ノ變化ニ依リ更ニ施策ヲ研究スルモノトス

(終)

11 昭和14年10月27日

欧州戰對策審議委員會幹事會が作成し同委員會に諮った「時局下對歐策要綱ニ關スル件」

十四、十、二十七

幹事會決定

時局下對歐策要綱ニ關スル件

歐洲戰對策審議委員會幹事會

歐洲戰對策審議委員會 御中

時局下對歐策ニ關スル陸軍案谷次官案及海軍案ハ何レモ本幹事會ノ九月二十五日決定セル「對外施策方針要綱」ト比較シ左ノ二點ニ於テ根本的ニ見解ノ相違アリ

一、幹事會案ハ情況ノ變化ニ應シ參戰シ若クハ單獨積極行動ニ出ヅル可能性ヲ否定セサルニ反シ他ノ三案ハ内閣聲明ノ「不介入」ヲ一應不動ノ國策トシテ固守セムト欲スルモノノ如シ

二、幹事會案ハ情況ニ應シ支那以外ノ地域ニ對シテモ新秩序ノ体制ヲ擴充セムコトヲ希望シ之ヲ可能ナラシムヘキ機會ノ到來ヲ否定セサルニ反シ他ノ三案ハ目前ノ經濟利益

ニ應シ將來ヲ拘束スヘキ對價ヲ提供スルヲ辭セス

素ヨリ幹事會ト雖モ參戰ノ必然性又ハ支那以外ノ地域ヘノ積極的發展ノ機會ノ到來ノ必然性ヲ絕對的ノモノトシテ確信スルモノニ非サルモ少クトモ現下ノ國際事態ニ鑑ミ右ノ如キ狀況發現ノ可能性ヲ度外視シ得サルモノニシテ從テ若シ右ノ如キ時期到來ノ場合ノ可能性ヲ心底ニ內藏セスシテ徒ラニ目前ノ案件處理ニ沒頭スルトキハ好機ノ勃發ニ臨ムテ或ハ精神的物質的準備ノ不足ノ爲ニ或ハ既濟ノ措置ニ拘束セラルル結果適切ナル行動ニ移リ得サル場合生セサルナキヤヲ慮ル

仍テ此ノ際ハ多少從來ノ行懸リヲ捨ツルモ本件ヲ白紙ニ還元シ右幹事會案ヲ基礎トシテ再應檢討ヲ加ヘラレ至急省議決定アラムコトヲ外務次官ニ要望セラルル様切ニ希望セサルヲ得ス

編 注 『日本外交文書 日中戦争』第一冊第295文書の別添。

12 昭和14年11月15日

欧州戦対策審議委員会が作成した「歐洲新情勢ニ對應スル南方政策」

歐洲新情勢ニ對應スル南方政策

(昭一四、一一、一五 委員會決定)

一、基本政策

(一) 目標

東亞新秩序ノ建設ハ南洋ヲ除外シテ其ノ全キヲ期シ難キモノアリト雖モ國際政局ノ現段階ニ於テハ

(イ)關係國ヲシテ邦人ノ進出發展ヲ許容セシメ我所要資源ノ獲得竝ニ我商品ノ進出、邦人關係事業ノ發展ヲ計リ

以テ南洋ヲシテ帝國經濟自給圈ノ一環タラシム

(ロ)南方諸地方ヨリスル援蔣行爲ノ停止工作ニ依リ支那事變ノ速ナル處理ヲ幫助促進ス

(二) 方法

南方政策ノ實施力對英、佛、米關係ノ全般的處理ト關聯スル所大ナルハ勿論ナルモ、歐洲戦争今後ノ進展ハ前記目的ノ達成ニ有利ナル情勢ヲ展開スヘシト豫想セラルルヲ以テ歐洲情勢ノ推移ト支那事變處理及新東亞建設ノ進行トヲ睨合セツツ各段階ニ應シ前記目標ニ向ツテ別記個

別の政策ヲ逐次實施ス

(イ) 我南洋政策遂行ノ爲メ場合ニヨリ南洋ニ於ケル關係國又ハ屬領ノ領土不可侵等ノ問題ニ付考慮スルコトアリ得可シト雖モ右ハ1、南方亞細亞解放ノ障礙トナルヘカラサルコト2、特ニ對價及保障期間ニ付周密ナル考察ヲ加ヘ輕々シク取扱フヘカラサルコトヲ念記スルヲ要ス

(ロ) 南方政策ノ遂行ニ當リテハ實行伴ハスシテ徒ニ南方進出ノ掛聲ノミヲ大ニシ又ハ思慮ナキ謀略ヲ試ムルカ如キハ單ニ對手方ヲ恐怖警戒セシムルニ過キサルカ故ニ慎ムヲ要ス

(ハ) 南方諸地域ノ歐米ニ對スル經濟的依存關係ヲ對日依存ニ轉向セシムル爲メ南洋物産ノ買付等ニ努力ス

(三) 世界情勢カ今日豫想セラルル以上ニ我方ニ對シ有利ニ展開スル場合ニハ更ニ積極的政策ヲ樹立スヘキモ、右ニ付テハ別途考究シ且之カ實施ハ緩急宜シキヲ得ル様充分慎重ヲ期スルノ要アリ

二、個別的政策

(一) 對英政策

支那問題ヲ中心トスル日英關係及日英間一般の通商關係調整ノ問題ト共ニ考慮セラルヘキモノナルカ、南洋問題ノ見地ヨリ英國ニ對シ採ルヘキ政策ハ左ノ方針ニ依ル

(イ) 緬甸ヲ通シテ行ハルル援蔣行爲ノ停止ヲ要求ス

(ロ) 南洋ハ地理的、經濟的ニ帝國ノ存立上重大利害關係ヲ有スル地域ナルコトヲ認メシム

(ハ) 南洋ノ英領各地ニ於テ我方ニ對シ通商、資源開發其他ノ企業、營業、入國、居住、移民等ニ關スル門戶開放乃至均等待遇ヲ約セシム

(ニ) 前項ニ關スル現行ノ各種反日的措置ノ撤廢ヲ要求ス

(註) 南洋問題ニ關スル我方要求ノ提出ニ當リテハ之ニ依リ英國トノ關係ニ於テ支那事變ノ處理ヲ妨ケサル様交渉上適當考慮ス

(二) 對佛政策(至急交渉開始)

(イ) 佛印ヲ通ジテ行ハルル援蔣行爲ノ停止ヲ要求スルト共ニ出來得レバ支那事變處理ニ協力セシムル様工作ス

(ロ) 佛印及「ニュー・カレドニア」ニ於テ我方ニ對シ通商、資源開發其他ノ企業、營業、入國、居住、移民等ニ關スル門戶開放乃至均等待遇ヲ約セシム

(ハ)前項ニ關スル現行ノ各種反日の措置ノ撤廢ヲ要求ス
(三)對泰國政策(至急實施)

思想、文化、經濟各般ニ亘リ一層積極的援助ヲ與ヘ出來得レハ經濟開發、貿易等ヲ經營スル日泰合辦會社ヲ興シ速ニ英、佛ノ羈絆ヲ脫シ、我方ニ對スル依存關係ヲ強化スルカ如ク施策ス尤モ之方爲泰國力英佛ノ壓迫ヲ蒙リ窮地ニ陥ルカ如キコトナキ様留意スルヲ要ス

(四)對蘭政策

(イ)我國ト蘭印間ノ通商竝ニ蘭印ニ於ケル邦人ノ資源開發其他ノ企業、營業、入國、居住、移民等ニ關スル門戸開放乃至均等待遇ヲ約セシム

(ロ)前項ニ關スル現行ノ各種反日の措置ノ撤廢ヲ要求ス
(ハ)日蘭協同ノ經濟的開發及經濟的相互依存關係ノ促進ニ努メ、以テ東亞自給經濟圈ノ確立ニ資ス

(五)對葡政策

「チモール」ニ於ケル日葡共同又ハ我方單獨ノ資源(特ニ石油)開發其他ノ事業經營ノ許可ヲ要求ス(現ニ交渉中)

(六)對比政策

(イ)比島ノ早期完全獨立ヲ容易ナラシムルニ努ム

(ロ)我方トノ經濟的文化的提携ノ緊密化ヲ計ル

(ハ)本邦移民、企業及通商ノ進出ニ對スル各種制限法規ノ緩和ニ努ム

(七)對華僑工作ニ付テハ別途措置ス

編 注 本文書は欧州戰對策審議委員會作成「對外施策方針要

綱」(「日本外交文書 日中戰爭」第一冊第309文書)の

別紙として作成された。

~~~~~

13 昭和14年12月28日 外務、陸軍、海軍三大臣決定

「對外施策方針要綱」

對外施策方針要綱

歐洲戰爭ノ勃發ニ依リ國際情勢ノ急轉ヲ見タル現下ノ時局ニ於テ之ニ對スル帝國ノ對外政策ハ東亞新秩序ノ建設ヲ基本目標トシ、差當リ對外施策ノ重點ヲ次ノ如ク定メ、情勢ノ變化ニ即應スヘキ方策ニ付テハ更ニ考究整備スルモノトス

## 第一 歐洲戰爭對處方針

一、歐洲戰爭ニ對シテハ戰局ノ段階進行シ各般ノ情勢ニシテ明カニ帝國ノ參戰ヲ得策トスルノ時期到來スレハ格別差當リハ不介入ノ方針ニ則リ帝國ノ中立の立場ヲ最モ有效ニ活用シ國際情勢ヲ利導シテ支那事變處理ノ促進ニ資スルト共ニ南方ヲ含ム東亞新秩序ノ建設ニ對シ有利ノ形勢ヲ釀成スル如ク施策スルモノトス

二、帝國ノ中立の立場ノ運用ニ當リテハ特ニ帝國ノ支那事變處理ニ對スル當該國ノ同調性竝ニ帝國國運ノ發展ニ對スル當該國ノ障礙性等ヲ考量ニ入レ適宜按配スルモノトス

三、歐洲戰爭ニ關聯スル國際情勢ノ利用ニ當リテハ戰局ノ變化情勢ノ急轉等ヲ注視シテ機ヲ逸セサル様留意スルモノトス

## 第二 支那事變對處方針

一、支那事變處理ハ既定ノ基本方針ニ依ルモノトス

二、支那事變處理ノ促進ヲ圖リ此ノ際特ニ支那新中央政府ノ樹立工作ヲ中心トスル政治的施策ノ效果ヲ確實ナラシムル如ク努ムルト共ニ日滿支經濟建設ニ付テハ成ル

ヘク速ニ其ノ實效ヲ舉クルコトヲ目途トシテ内外ノ情勢ニ應シ適當ナル施策ヲ行フモノトス

三、歐洲戰局ノ進展等ト睨ミ合セツツ支那新政權ヲ指導シテ事變目的ノ達成ニ障害アル支那ノ舊國際秩序(例ヘハ租界及治外法權)ヲ逐次調整セシムルノ方針ヲ採ルモノトス但シ我方ニ對スル利害關係ノ重大ナルニ鑑ミ其ノ時期及方法ニ付テハ之ヲ慎重考慮ス

## 第三 主要列國ニ對スル施策方針

一、帝國ハ不動ノ國策トシテ防共ノ方針ハ之ヲ堅持スルモ蘇聯ニ對シテハ特ニ支那事變中兩國關係ノ平靜化ヲ圖リ就中國境ノ安全ヲ保持シ且國境ニ於ケル紛爭ハ武力ニ訴フルコトナク平和的折衝ニ依リテ之ヲ解決ヲ圖ル爲所要ノ外交措置ヲ講スルモノトス但シ蘇聯ノ政策ハ時ニ急角度ノ轉向ヲ爲スコトアリ且其ノ赤化政策ハ執拗ナルモノアルヲ以テ警戒ヲ怠ラサルヲ要ス

(イ)國交平靜化ノ爲ニハ一般の國境問題ノ解決、通商協定ノ締結及漁業基本條約、北樺太利權(情況ニ依リ北樺太ノ買収)等ノ懸案解決ヲ考慮ス

(ロ)國境問題ハ平和的折衝ニ依リ解決スヘク紛爭處理及

國境確定ノ兩委員會設置ヲ企圖ス

(ハ)不侵略條約ハ少ク共蘇聯ノ對支援助拋棄及日滿脅威軍備ノ解消等ヲ前提要件トシ其ノ見透シ確實トナル迄ハ之ヲ公式ニ取扱ハス從テ我方ヨリ之ヲ提議スルコト無シ

而シテ先方ヨリ之カ提議アリタル場合ニハ條約締結ヨリモ右前提要件確立カ急務タルヘキヲ力說シ此種先方ノ氣持チヲ諸懸案ノ解決促進ニ利用シツツ不侵略態勢ノ確立ニ誘導スルモノトス

但對米施策ヲ有利ナラシムル爲日蘇接近ノ氣配ヲ裝フコトアリ

二、米國ニ對シテハ我事變處理ニ對シ經濟的手段等ニ依リ妨害干涉ヲ加ヘ來ルヲ防止シ少クトモ無條約狀態ニ陥ラサルヤウ努ムルト共ニ實質的ニ我事變處理ニ同調的態度ヲ執ラシムルコトヲ目途トシテ施策スルモノトス米國ノ對日態度ノ惡化ハ主トシテ(イ)在支米人若ハ米國ノ宗教的文化的施設ニ對スル我軍事行動ノ餘波(ロ)支那ニ於ケル米國ノ經濟活動ニ對スル影響(ハ)支那新秩序ノ實體ニ關スル疑惑不安等ニ起因スルモノナルニ因リ其

原因ヲ除去スルノ工作ヲ爲スモ(別紙對米施策參照)我方ノ弱味乃至焦燥の氣分ヲ示スコト無キヤウ留意スルト共ニ場合ニ依リテハ牽制的手段(獨蘇又ハ中南米トノ關係等ヲ考慮シ得ヘシ)ヲ仄カスノ要モアルヘク且米國カ飽クマテ政治的意圖ヲ以テ日本掣肘ノ態度ヲ固持スル場合ニ對スル措置ヲモ考究シ置クヲ要ス

尙情勢ノ推移ニ依リ米國ヲ歐洲戰ニ專念セシムル爲又ハ戰亂ノ太平洋方面ニ波及シ來ルヲ防止シ若ハ我南洋對策遂行ヲ容易ナラシムル爲ニ必要アル場合ニハ米國ニ對シ政治的の了解ヲ逐クル等適宜施策スルコトアルヘシ

「フィリッピン」ノ獨立ハ南方亞細亞解放ノ第一歩ナルコトヲ念頭ニ置キ比島ニ對スル米國ノ對日不安ヲ除去シ同島獨立ノ妨害トナラサルヤウ措置スルト共ニ是レト友好經濟關係ノ擴充ニ努力ス

三、英國ニ對シテハ同國カ支那ニ於テ政治的目的ヲ有セストノ同國ノ意嚮及帝國ノ中立的立場ノ利用竝ニ其ノ在支權益ニ對スル取扱等ニ依リ之ヲ利導シテ帝國ノ企圖スル東亞新秩序建設ニ對シ逐次同調スルノ已ムヲ得サ

ルニ至ラシムル如ク施策スルモノトス

支那問題ニ關シテハ我國ハ英國ニ對シ種々ノ牽制手段ヲ有シ且英國カ歐洲戰ニ漸次深入リシ來ルヲ見越シ徐々且逐次ニ前記在支權益ノ調整等ヲモ加味シ個々ノ具體の問題ニ關シ讓步セシメ牽テ我事變處理乃至東亞新秩序建設ニ資スヘキ基本的了解ノ素地ヲ作ルカ如ク指導スルモノトス尤モ歐洲戰ノ推移未タ逆睹スヘカラス又日支新關係設定モ進行中ノ今日前記在支權益ノ調整等ノ程度ハ英國ノ我事變處理ニ對スル同調的態度ノ程度ニ應シ適宜之ヲ定ムルモノトス

(イ) 天津會談ハ前記日英交渉ニ入ルノ端緒トスルノ含ヲ以テ成ルヘク速ニ其後始末ヲ講スルモノトス

(ロ) 英國ノ和平斡旋申入ニ對シテハ蔣介石ノ下野及國共絶縁ハ我方ノ對重慶方針ナルモ英國利用ノ觀點ヨリシテ差當リハ國共絶縁カ先行條件ナリトノ趣旨ニテ應酬シ又英國ノ汪蔣間ノ妥協斡旋ニ對シテモ汪政權ヲシテ前記ノ趣旨ニテ應酬セシムルモノトス

前記支那ニ關スル對英措置ト相俟テ歐洲情勢ノ機微ヲ利用シ英帝國諸地域トノ通商障害ヲ除去シ且特ニ南洋

方面ニ對スル我方進出ヲ可能ナラシムル如ク努ムルモノトス(別紙南洋對策參照)

對英米施策ニ關シ

(イ) 支那新秩序建設ニ同調セシムルコト主眼點ナルニ依リ先ツ支那新中央政府ノ樹立及日支新關係調整ノ内容ヲ確立スルヲ要ス其確立前ニ於テハ主トシテ先方肚裏ノ測定乃至懸案ノ交渉ヲ限度トシ我方ヲ拘束スルコトナシニ折衝ス

(ロ) 英米ノ不可分關係ニ留意スルト共ニ英ハ支那ニ於テ多大ノ權益ヲ有スレトモ之ヲ保全スルノ實力ナクモハ支那ニ於テ僅少ノ權益ヲ有スルニ過キササルモ日本ヲ掣肘スル力ハ最モ大ナルモノアルノ事實ヲ考量シ英米共通ノ利害アル問題ト雖モ別個ノ施策ヲ行フト同時ニ對英交渉ノ進捗ニ依リ共通問題ニ對スル米國ノ對日態度ヲ緩和セシムル如ク努ム

(ハ) 九國條約問題ハ支那新政權樹立後同政府ト協力シテ解決スヘク此際特ニ之ニ觸ルルヲ避ク

四、佛國ニ對スル施策ハ概ネ對英措置ニ準スルモ特ニ其東洋ニ於ケル立脚點ノ脆弱ナルヲ利用シテ對英措置ヲ容

易ナラシムル如ク誘導スルノ考慮ヲ加フルモノトス  
情勢ノ推移ニ應シ特ニ佛領印度支那ニ關シ先ツ蔣政權  
側ニ對スル軍需品輸送ノ停止竝ニ通商關係ノ改善排他  
獨占の政策ノ修正等ニ付我方要望ヲ容レシムル如ク施  
策スルモノトス(別紙南洋對策參照)

五、獨蘇協定成立以來情況ノ變化ハアリタルモ獨伊兩國カ  
世界新秩序ノ建設上帝國ト共通ノ立場ニ立チ得ヘキ點  
ニ着目シ依然提携及友好關係ヲ持續シ特ニ之カ活用ニ  
努ムルト共ニ日獨伊ノ疎隔ヲ印象付クルカ如キ措置ハ  
嚴ニ之ヲ慎ムモノトス

六、蘭國ニ對シテハ蘭領印度ニ關スル同國ノ不安ヲ考量ニ  
容レツツ我方進出ヲ可能ナラシムル如ク誘導シ差當リ  
特ニ此ノ方面ヨリノ我所要物資ノ獲得ヲ便ナラシムル  
如ク施策スルモノトス(別紙南洋對策參照)

七、「タイ」國ニ對シテハ眞ノ獨立完成ヲ支持シ且我方ト  
ノ文化的經濟の提携ヲ緊密ナラシムル如ク施策スルト  
共ニ適當ノ時機ニ於テ一定ノ政治的了解ニ到達スル様  
誘導スルモノトス(別紙南洋對策參照)

#### 第四 對外經濟政策大綱

日滿支經濟圈內ニ於ケル自給自足ノ促進、竝ニ現下國際  
情勢及戰後ノ事態ニ對處シ得ル帝國新經濟政策ノ樹立ヲ  
目標トシ特ニ左記諸點ニ留意シテ適正ナル施策ヲ行フモ  
ノトス

(イ)日滿支經濟圈ヲ一體トシ之ト諸外國トノ經濟關係ノ調  
整増進ヲ計ルコト

(ロ)國防經濟自給圈確立ノ見地ヨリ特ニ南方諸地域ニ對ス  
ル經濟の進出ニ努ムルコト

(ハ)帝國產業貿易ノ特定國ニ對スル偏在の依存關係は正ニ  
努メ特ニ中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟の進出  
ニ留意スルコト英米ニ對スル過度ノ經濟の依存關係ハ  
成ルヘク速ニ脱却スルノ要アルモ一舉ニ之ヲ爲シ得サ  
ル現状ナルニ鑑ミ英米兩國トノ關係ニ付テハ充分ノ注  
意ヲ拂ヒ新支那經濟建設ニ協力セシムル様其ノ誘導ニ  
努ムルコト

(ニ)通商條約ノ締結等ニ依リ列國トノ經濟關係ヲ調整シ輸  
出貿易ノ振興ト帝國ノ不足資源ノ獲得ニ力ヲ致シ特ニ  
左記諸點ニ留意スルコト

(1) 求償乃至互惠主義ニ重點ヲ置クコト

(2) 當該相手國トノ政治的關係利導ニ努ムルコト

(3) 採算上多少ノ不利ヲ忍ヒテモ不足重要資源ノ確保ニ努ムルコト

編注一 本文書の別紙「當面ノ對米施策要綱」は『日本外交文

書 日中戦争』第一冊第309文書中に収録。また同別紙

「歐洲新情勢ニ對應スル南方政策」は本書第12文書。

なお、両別紙は三大臣決定保留となった。

二 本文書の作成経緯については、『日本外交文書 日中

戦争』第一冊第309文書および同付記を参照。

~~~~~

14 昭和15年2月5日

欧亞局第三課が作成した高裁案「歐洲新情勢

ニ對應スル南方政策案ニ關スル件」

歐洲新情勢ニ對應スル南方政策案ニ關スル件

一、歐亞局ニ於テハ豫テヨリ確固タル南方政策樹立ノ必要ヲ痛感シ昭和十四年一月ヨリ省内關係局部ノ意嚮ヲ徴シ慎重研究中ナリシ處同年十一月ニ至リ省内關係局部竝ニ陸

海軍事務當局ノ贊同ヲ得テ「歐洲新情勢ニ對應スル南方政策案」^(編注)(別紙)ヲ作成セルガ本案ハ當時外務、陸軍、海

軍三大臣ニ於テモ之ヲ是認セラレタルニ付歐亞局及陸、

海、事務當局間ニ於テハ更ニ野村外務大臣ヨリ之ヲ閣議

ニ披露シ内閣全体ノ承認ヲ求メラルル様打合ヲ了シ居リタリ

三、然ル處其後内閣ノ更迭ニ依リ本案ハ閣議ニ披露セラルル

ニ至ラズ今日ニ及ビ居ル處本案ノ一部ハ既ニ從來ヨリ實

施シ來リ居ルノミナラズ新ニ實施ヲ開始セルモノモアル

ニ付此際改メテ新内閣ノ外、陸、海三相ノ諒承ヲ得タル

上外相ヨリ首相ノ諒承ヲ求メ更ニ進ンデ閣議ニ於テ外相

ヨリ前記四相以外ノ閣僚ノ諒承ヲ求メラレ以テ本案實施

ニ支障無カラシムル様致度

三、就テハ有田大臣ニ於テ本案内容ニ御異議ナキ場合ハ本省

事務當局ヨリ其旨陸海軍事務當局ニ通知シ現陸、海兩大

臣ノ諒承ヲ求メ、其ノ上ニテ有田大臣ヨリ首相竝ニ閣議

ノ諒承ヲ求メラルル様致度

右仰御高裁

編注一 省略。本書第12文書として採録。

二 本高裁案は、決裁日が未記入であり、決裁を完了しなかったものと思われる。

~~~~~

15 昭和15年5月1日

### 外務省作成の「第二次對外施策方針要綱」

「第二次對外施策方針要綱」(案)

(昭和十五年五月一日)

歐洲戰爭ノ發展ニ伴ヒ昭和十四年十二月廿八日決定ヲ見タル「對外施策方針要綱」ヲ修正シ差當リ對外施策ノ重點ヲ次ノ如ク定ムルモノトス

#### 第一、歐洲戰爭對處方針

一、戰<sup>戦</sup>歐洲戰爭ニ對シテハ差當リ不介入ノ方針ヲ持續シ帝國ノ中立的立場ヲ有效ニ活用スルコトニヨリ支那事變ノ速力ナル終結ヲ圖ルモノトスルモ支那事變終結ノ爲ニ參戰乃至ハ交戰國ノ一方ニ對シ好意的態度ヲ採ルヲ有利トスルニ至ルコトアルベキヲ豫期シ萬全ノ準備ヲ整ヘ置クモノトス

二、帝國ノ中立的立場ノ運用ニ當リテハ特ニ帝國ノ支那事

變處理ニ對スル當該國ノ同調性竝ニ帝國國運ノ發展ニ對スル當該國ノ障礙性等ヲ考量ニ入レ適宜按配スルモノトス

三、歐洲戰爭ニ關聯スル國際情勢ノ利用ニ當リテハ戰局ノ變化情勢ノ急轉等ヲ注視シテ機ヲ逸セザル様留意シ特ニ戰局ノ極東、南洋波及ニ備ヘ具體的準備ヲ整ヘ置クモノトス

#### 第二、支那事變處理方針

一、支那事變處理ハ新中央政府ノ育成及同政府ニ依ル重慶政權崩壞工作ニ對スル協力ニ意ヲ用ヒ且帝國ノ支那事變處理ニ對スル同調性强キ第三國ノ利用ヲ圖ルモノトシ支那事變ノ終結ヲ俟タスシテ支那以外ノ部面ニ於テ帝國ノ實力ヲ消耗セザルコトヲ期スルモノトス

二、日滿支經濟建設ニ付テハ成ルヘク速ニ其ノ實效ヲ舉クル様施策シ特ニ對外依存關係脱却ニ心懸クルモノトス  
三、歐洲戰局ノ進展等ト睨ミ合セツツ支那新中央政府ヲ指導シテ事變目的ノ達成ニ障害アル支那ノ舊國際秩序(例ヘハ租界及治外法權)ヲ逐次調整セシムルノ方針ヲ



探ルモノトス但シ我方ニ對スル利害關係ノ重大ナルニ鑑ミ其ノ時期及方法ニ付テハ之ヲ慎重考慮ス

四、九國條約問題ニ付テハ慎重ナル檢討ヲ加ヘタル上支那新中央政府ト協力シ適當ノ時期ニ於テ之ヲ力取扱ニ關スル態度ヲ明確ニスルモノトス

### 第三、主要列國ニ對スル施策方針

一、帝國ハ不動ノ國策トシテ防共ノ方針ハ之ヲ堅持スルモ蘇聯ニ對シテハ特ニ支那事變中兩國關係ノ平靜化ヲ圖リ就中國境ノ安全ヲ保持シ且國境ニ於ケル紛爭ハ武力ニ訴フルコトナク平和的折衝ニ依リテ之ヲ解決ヲ圖ル爲所要ノ外交措置ヲ講ズルト共ニ情勢展開セバ支那事變終結ノ爲政治的ニ蘇聯ヲ利用スルモノトス但シ蘇聯ノ政策ハ時ニ急角度ノ轉向ヲ爲スコトアリ且其ノ赤化政策ハ執拗ナルモノアルヲ以テ警戒ヲ怠ラサルヲ要ス

(イ) 國交平靜化ノ爲ニハ一般的國境問題ノ解決、通商協定ノ締結及漁業基本條約、北樺太利權(情況ニ依リ北樺太ノ買收)等ノ懸案解決ヲ考慮ス

(ロ) 國境問題ハ平和的折衝ニ依リ解決スヘク紛爭處理及國境確定ノ兩委員會設置ヲ企圖ス

(ハ) 蘇聯ノ對蔣援助放棄及滿蘇國境軍備ノ撤退又ハ縮減ヲ適宜要求ス

(ニ) 對英米施策關係上出來得ル限り獨蘇ノ提携ヲ緊密ナラシムル樣努力スルト共ニ積極的ニ蘇聯ヲシテ對英戰爭ニ入り込マシムル樣企圖ス

前項ト相俟ツテ之ヲ力目的貫徹ノ爲必要アル場合ハ日蘇不可侵條約ノ締結(外蒙古ヲ含ム)及支那西北地區、新疆等ニ於ケル蘇聯又ハ支那共產軍ノ勢力範圍ヲ認ムルコトヲ考慮ス

二、米國ノ對日態度ノ重點ハ結局帝國ノ發展ヲ抑制シ帝國ノ基本目標タル東亞新秩序ヲ妨害セムトスルニアリテ結局帝國ニ有利ナル國際情勢ノ變化乃至事實上ノ東亞新秩序ノ完成ニ依ラサレハ米國ヲシテ我方ニ同調セシムル見込極メテ尠キコトヲ念頭ニ置キツツ對米直接施策ノミニ依ラス積極的ニ國際情勢ヲ利導シテ米國ノ態度是正方ヲ施策スルモノトス

(イ) 支那ニ於テ米國輿論ヲ刺戟シ對日態度ヲ惡化スベキ原因トナル行動ヲ慎シムト共ニ現ニ米國側ニ於テ解決ヲ要求シツツアル個々ノ案件ニ付テハ帝國ニ於テ



自發の二着々之ヲ解決スルモノトス

(ロ)米國トノ通商條約ニ關シテハ先方ヨリ申出來ル場合ハ別トシ然ラサル限り帝國ヨリ話合ヲ持懸クルコトハ回避シ帝國ノ東亞新秩序建設ニ關スル眞意ヲ穩便裡ニ悟得セシムル様施策ス

(ハ)米國ノ對日禁輸策ハ極メテ危險性ヲ孕ムモノナルコトヲ適宜且漸次的ニ米國民衆ニ理解セシムル様企圖スルト共ニ對中南米工作、對南洋工作、對蘇交涉等ヲ以テ米國ヲ牽制、反省セシムル様施策ス

(ニ)「フィリッピン」ノ獨立ハ南方亞細亞解放ノ第一歩ナルコトヲ念頭ニ置キ比島ニ對スル米國ノ對日不安ヲ除去シ同島獨立ノ妨害トナラサル様措置スルト共ニ是レト友好經濟關係ノ擴充ニ努力ス

(ホ)帝國ノ對米經濟依存性ノ脱却ニ付テハ速カニ適切ナル施策ヲ繼續スルモノトス

三、英國ノ帝國ノ國運發展ニ對スル障礙性ハ結局ニ於テ米國ト異ナラザルモノアリト雖モ、同國ノ當面セル國際情勢ハ日本ノ對獨包圍陣加入ノ必要ヲ促シ居ルコト就中東亞ニ於ケル脆弱ナル立場ハ我事變處理ニ對シ已ム

ヲ得ス同調のナラシメ居ルニ鑑ミ支那事變終結ノ爲英國ノ對重慶壓力ヲ利用スルモノトス、但シ英國ノ多面的ナル外交就中歐洲戰爭ヘノ引込ミニ對シ嚴ニ警戒ヲ怠ラザルモノトス

(イ)天津問題ノ解決ヲ機トシ英國ノ援蔣行爲拋棄及新中央政府ニ對スル協力ニ關スル交渉ヲ開始シ併セテ我カ占領地域内ニ於ケル英國ノ權益ニ關スル調整ヲ行フ

(ロ)英米ノ不可分關係ニ留意スルト共ニ他方英米ノ立場ノ相異ヲ考慮シ英米ニ對スル施策ハ常ニ個別的ニ之ヲ行フ、但シ對米施策ニ於ケル英國ノ立場ノ利用ヲ妨ケス

(ハ)支那ニ關スル對英措置ト相俟ツテ英帝國諸地域トノ通商障害ヲ除去シ且特ニ南洋方面ニ對スル我方進出ヲ可能ナラシムル如ク努ムルモノトス

(ニ)對佛交渉ニ關シテハ適宜英國ノ對佛壓力ヲ利用スルコトアリ

四、佛國ニ對スル施策ハ概ネ對英措置ニ準スルモ特ニ其東洋ニ於ケル立脚點ノ脆弱ナルヲ利用シテ對英措置ヲ容

易ナラシムル如ク誘導スルノ考慮ヲ加フルモノトス  
情勢ノ推移ニ應シ特ニ佛領印度支那ニ關シ先ツ蔣政權  
側ニ對スル軍需品輸送ノ停止竝ニ通商關係ノ改善排他  
獨占の政策ノ修正等ニ付我方要望ヲ容レシムル如ク施  
策スルモノトス

五、獨逸ニ關シテハ世界新秩序ノ建設上帝國ト共通ノ立場  
ニ立チ得ヘキ點ニ着目シ依然提携及友好關係ヲ持續シ  
特ニ歐洲戰爭ヲ長引カシムル爲ニ必要ナル精神の支援  
ヲ與ヘ且將來對英及對蘇關係ニ於テ政治的了解ニ達シ  
得ルノ道ヲ開キ置クニ努ムルモノトス從テ獨逸ヲシテ  
日本ニ對スル反感ヲ強メ蘇聯ヲ驅ツテ日本ヲ牽制セン  
トスルガ如キ政策ニ出デシメザラシムル様注意ヲ怠ラ  
ザルモノトス

尙前記對蘇國交調整ニ當リテハ獨蘇關係ノ現狀ニ鑑ミ  
適宜獨逸ノ對蘇發言權ヲ利用スルモノトス

六、伊太利ニ關シテハ基本的立場ニ於テ獨逸ト類似シ居ル  
ニ依リ提携及友好關係ノ持續ニ努ムルハ勿論ナルガ、  
殊ニ伊太利ガ獨逸ニ友好的ナルニ拘ラス今尙中立ノ立  
場ニ在ルノ妙味ヲ活用シ對英佛牽制上充分ニ利用スル

ト共ニ對獨及對蘇關係ニ於ケル伊太利ノ發言權ヲ適宜  
利用スルモノトス、特ニ英國ノ對獨封鎖ニ伴フ通商障  
害ニ對シ帝國ト同様ノ立場ニアルニ鑑ミ隨次連絡協調  
スルモノトス

七、蘭國ニ對シテハ蘭領印度ニ關スル同國ノ不安ヲ考量ニ  
入レツツ我方進出ヲ可能ナラシムル如ク誘導シ差當リ  
此ノ方面ヨリ我所要資源ノ獲得ヲ便ナラシムル如ク施  
設スルモノトス

尙南方諸地域ガ帝國ノ戰時資材確保ノ爲必要不可缺ナ  
ルニ鑑ミ現ニ主權國タルモノ以外ノ國カ此ノ地域ニ政  
治的ニ介入セントスル場合ニ備ヘ適切ナル對策ヲ講シ  
置クモノトス

八、「タイ」國ニ對シテハ眞ノ獨立完成ヲ支持シ且我方ト  
ノ文化的經濟の提携ヲ緊密ナラシムル如ク施策スルト  
共ニ適當ノ時機ニ於テ一定ノ政治的了解ニ到達スル様  
誘導スルモノトス

#### 第四、對外經濟政策大綱

日滿支經濟圈內ニ於ケル自給自足ノ促進竝ニ現下國際情  
勢及戰後ノ事態ニ對處シ得ル帝國新經濟政策ノ樹立ヲ目

標トシ特ニ左記諸點ニ留意シテ適正ナル施策ヲ行フモノトス

(イ)日滿支經濟圈ヲ一体トシ之ト諸外國トノ經濟關係ノ調整進ヲ計ルコト

(ロ)國防經濟圈確立ノ見地ヨリ特ニ南方諸地域ニ對スル經濟的進出ニ努ムルコト

(ハ)帝國產業貿易ノ特定國ニ對スル偏在的依存關係是正ニ努メ特ニ中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟的進出ニ留意スルト共ニ英米ニ對スル過度ノ經濟的依存關係ハ成ルヘク速ニ脱却スルニ努ムルモノトス

(ニ)通商條約ノ締結等ニ依リ列國トノ經濟關係ヲ調整シ輸出貿易ノ振興ト帝國ノ不足資源ノ獲得ニ力ヲ致シ特ニ左記諸點ニ留意スルコト

(1)求償乃至互惠主義ニ重點ヲ置クコト

(2)當該相手國トノ政治的關係利導ニ努ムルコト

(3)採算上多少ノ不利ヲ忍ヒテモ不足重要資源ノ確保ニ努ムルコト



16 昭和15年5月31日

欧亜局第三課作成の「歐洲ノ新情勢ニ即應スル南方政策」

昭和十五、五、三十一

歐洲ノ新情勢ニ即應スル南方政策

(右實行ノ爲ノ基礎的外交工作及實行要綱)(案)

一、我國民ガ日本民族ノ使命トシテ達成ニ努力シツ、アルハ支那事變ヲ處理シ以テ東亞新秩序ヲ建設スルニ在リ然ル處歐洲ノ戰局ハ英佛ノ敗色濃厚トナレルニ依リ我方トシテハ此ノ絶好ノ機會ヲ利用シテ事變處理及新秩序建設ノ促進ヲ圖ラザルベカラズ從來我方ハ事變處理ニ付テモ歐洲戰爭不介入方針ノ名ノ下ニ且ツ之ヲ消極的ニ解シ何等外交上ノ「バック・グラウンド」ヲ持タズ事實上ハ國際的孤立ノ立場ニ在リタル處斯クノ如キ狀態ニ於テハ支那事變ノ急速ナル處理不可能ナルノミナラズ世界新秩序ノ建設ニ取殘サレ、東亞新秩序ノ建設モ満足ニ行ヒ得ザルコトナルベシ、依テ此ノ際乾坤一擲、我對外政策及事變處理ノ根本方針ヲ再檢討シ新ナル手段方法ニ依ル

積極的ナル活動ヘノ再出發ヲナサザルベカラズ

二、右活動ノ主タル目標ハ先ヅ之ヲ南方政策ノ遂行ニ置クベキモノナリ南洋ハ民族の歴史的の見地ヨリ觀ルモ東亞新秩序建設ニ協力スベキ地域ナルノミナラズ我國ノ必要トスル資源ノ供給及邦人ノ企業の進出等經濟的觀點ヨリスルモ我國ト共存共榮ノ關係ニ在ルベキ地域ナリ我朝野ガ禁輸案ヲ繞ル米ノ對日態度ニ一憂一喜スルハ我國ノ經濟ガ米國ニ倚存スルコト大ナルニ依ルモノナルニ鑑ミ我方トシテハ速ニ斯カル狀態ヨリ脱脚<sup>（四）</sup>シ以テ我經濟上、外交上ノ立場ヲ強化セザルベカラズ、南洋ハ石油ノ如キ日滿支經濟「プロック」内ニ於テハ其ノ產出甚ダ稀少ナル重要資源ノミナラズ錫、護謨ノ如キ米國スラ產出シ得ザル原料資源ヲ豊富ニ供給シ得ル寶庫ナリ依テ我方トシテハ南洋ヨリ歐米勢力ノ驅逐ヲ圖ルト共ニ我方ト南洋トノ政治的經濟的關係ヲ緊密化シ殊ニ資源ノ開發等ノ爲ノ企業の進出ニ努メザルベカラズ

斯クノ如ク南洋ハ政治的及經濟の見地ヨリ觀テ支那事變ノ完遂及東亞新秩序ノ建設ヲ促進スル上ニ不可欠ノ要素ナルノミナラズ、支那トノ接壤地タル佛印ニ對スル施策

ニ依リ軍事的ニモ著シク之ヲ促進スルコトヲ得ベシ

三、目下歐洲ノ戰局ハ英佛ノ敗色濃厚ナルモ、今後ノ見透ニ付テハ、相反スル二ツノ觀測即チ獨ノ壓倒的勝利ヲ以テ戰爭ハ早急ニ終了シ以後歐洲ハ獨ノ政治的制覇ニ歸スベシト見ルモノト速戰即決ハ不可能ニシテ長期戰トナルベシト見ルモノトアリ若シ後者ノ觀測ノ如ク長期戰トナル場合ニハ米ノ參戰、蘇ノ活動モ起リ得ベク我方トシテハ早急ナル行動ニ出ヅルコト無ク情勢ヲ推移ヲ注視シツツ慎重對策ヲ考究スルコトヲ得ベキモ、若シ前者ノ觀測ノ如ク獨ノ壓倒的勝利ヲ以テ急速ニ戰局終結スル場合ニハ我方トシテモ其ノ場合ニ及ビテ徐ニ對策ヲ考究シ居ルノ暇無キノミナラズ機ヲ失セザル様迅速ナル活動ヲ必要トスルニ依リ、豫メ斯カル場合ニ對應スベキ左記要綱ノ基礎の外交工作及南方政策ノ方針ヲ確立シ置カザルベカラズ四、南方政策ノ遂行ヲ目標トスル基礎の外交工作

(一)獨伊トノ提携ヲ強化ス

(イ)英佛米蘇牽制ノ爲相互のニ了解ヲ遂クルコト

(ロ)獨伊ヲシテ我方ノ東亞新秩序建設(南方政策ノ遂行ヲ含ム)ヲ支持セシメ、我方ハ獨伊ノ歐洲新秩序建

設ヲ支持スルコト

(二)蘇トノ間ニ一般的國交調整ヲ行ヒ以テ北方ヲ固ム

(三)米ヲシテ我南方政策ノ遂行ヲ妨碍セザラシムルコト

五、南方政策實行要綱  
(以下見当ヲス)

17 昭和15年6月29日

有田外相ラジオ声明「國際情勢ト帝國ノ立場」

付記一 昭和十五年七月十三日發有田(八郎)外務大臣

より阿部(信行)中国派遣大使宛電報第一四九

号

有田ラジオ声明の發出理由について

二 昭和十五年七月十五日付、作成局課不明

有田ラジオ声明の發出経緯

國際情勢ト帝國ノ立場

六月二十九日閣議ニ於テ決定

同日午後有田外相「ラヂオ」放送

我が國肇國以來ノ理想ハ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムルニ在リマス。我外交方針モ亦此ノ理想ニ基クモノデアリマ

シテ之ガ爲ニハ時ニ國運ヲ賭シテ戰フコトスラモ敢テ辭セナカツタノデアリマス。

凡ソ世界平和ノ確立ハ人類ノ渴仰スル所デアリマスガ其ノ平和ナルモノハ萬邦各々其ノ所ヲ得ルニ非ザレバ、永續性ナキコトハ言ヲ俟タナイノデアリマス。シカシ乍ラ此ノ意味ニ於ケル世界平和ノ確立ハ人類進歩ノ現段階ニ於テハ遺憾ヲ一舉ニシテ達成シ難イモノガアルノデアリマス。故ニコノ大理想ヲ實現スル爲ニハ地理的、人種的、文化的、經濟的ニ密接ナル關係ニアル諸民族ガ共存共榮ノ分野ヲ作リ先ヅソノ領域内ニ於ケル平和ト秩序トヲ確立スルト共ニ他ノ分野トノ間ニモ共存共榮ノ關係ヲ樹立スルコトガ最も自然ナ順序デアラウト考ヘルノデアリマス。而シテ人類葛藤ノ原因ガ概ネ斯ル自然的建設的體制ヲ顧ミヤウトモセズ又、在來ノ不合理不正ニ對シ修正ヲ加ヘヤウトモシナイコトニ存スルコトハ、世界ガ過去ニ於テ又現在ニ於テ經驗シテ居ル實狀デアリマシテ今次歐洲戰爭ノ勃發ニ鑑ミ特ニ此感ヲ深ウスル次第デアリマス。從テ國際平和ヲ恆久的基礎ノ上ニ確立致シマスル爲ニハ凡ユル努力ヲ以テ斯クノ如キ過誤ヲ是正セネバナライノデアリマス。

帝國ガ東亞新秩序ノ建設ニ向ツテ邁進致シテ居リマスノモ  
以上ノ精神ニ基クモノデアリマス。從テ支那事變收拾ニ關  
スル帝國ノ態度ハ從來屢々聲明致シマシタ通り何等支那ノ  
存立ト相容レナイモノデナイノミナラズ善隣友好、共存共  
榮ヲ旨トスルモノデアリマス。然ルニ從來帝國ノコノ大義  
ニ立脚セル東亞再建ノ大業ニ對シ理解ヲ有シナイノミナラ  
ズ却テ蔣政權ヲ支持シ、東亞ニ於ケル平和ノ建設ヲ妨礙シ  
ツツアルモノノ存シマスルノハ極メテ遺憾ナコトデアリマ  
シテカネテソノ反省ヲ促シ來ツタノデアリマスガ、コノ際  
更ニソノ猛省ヲ促スト共ニ援蔣行爲ノ根絶ヲ期シ凡ユル手  
段ヲ盡ス決意ヲ有スルモノデアリマス。

東亞ノ諸國ト南洋諸地方トハ地理的二モ、歴史的二モ、民  
族的二モ將又經濟的二モ極メテ密接ナル關係ニアリマシテ  
互ニ相倚リ相扶ケ有無相通ジテ共存共榮ノ實ヲ擧ゲ以テ平  
和ト繁榮トヲ増進スベキ自然ノ運命ヲ有スルノデアリマス。  
故ニ之等ノ地域ヲ一括シテ共存ノ關係ニ立ツ一分野ト爲シ、  
ソノ安定ヲ圖ルコトガ當然ノ歸結ト思ハレルノデアリマス。  
斯クノ如ク部分的ニ公正ナル平和ヲ建設シ、之ヲ集大成シ  
テ世界全般ノ公正ナル平和ヲ建設セントスル考ハ歐米諸國

ニ於テモ存スルノデアリマス。而シテ此ノ思想ハ夫々ノ分  
野ニ於ケル安定勢力ヲ豫想スルモノデアリマシテ斯ル勢力  
ヲ中心ト致シマシテ其ノ分野内ニ於ケル諸民族ガ共存共榮  
ト安定トヲ確保スルト同時ニ、各分野ハ他ノ分野ノ政治的  
文化的及經濟的特色ヲ尊重シ、有無相通ジシカモ互ニ相侵  
サズ、協力スルコトヲ以テソノ内容トスルモノデアリマス。  
今次歐洲戰爭ガ勃發致シマスルヤ、帝國政府ハ不介入ノ方  
針ヲ闡明シ、歐洲戰爭ニ介入セザルト共ニ戰禍ノ東亞方面  
ニ波及スルヲ欲セザルコトヲ明ニ致シマシタガ、自然帝國  
トシテハ歐米諸國ガ東亞方面ノ安定ニ好マシカラザル影響  
ヲ及スガ如キコトナキヲ期待スルモノデアリマス。

今ヤ帝國ハ東亞新秩序ノ建設ニ邁進シテ居リマスルト共ニ、  
今次歐洲戰爭ノ成行特ニ南洋ヲ含ム東亞ノ諸地域ニ及ボス  
影響ニ付テハ常ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒツツアルモノデアリ  
マシテ此等諸地方ニ付齎サルコトアルベキ運命ニ對シマ  
シテハ東亞ノ安定勢力タル帝國ノ使命ト責任トニ顧ミマシ  
テ重大ナル關心ヲ有スルモノデアル事ヲ言明シテ置キマス。

編 注 本声明への海外反響については、本書「八 南進問題

をめぐる英米との関係」の「1 極東危機説」を参照。

(付記一)

本省 7月13日後9時20分発

第一四九號(極秘、館長符號扱)

貴電第二四三號ニ關シ

蘭印問題ニ付テハ四月十五日新聞發表ヲナシタルカ其ノ後歐洲情勢變化シ右ニ伴ヒ國論區々タルモノアリ殊ニ佛印ニ於テ援蔣「ルート」ヲ禁絶方承諾セルニ勢ヲ得景氣ノ好キ南進論擡頭シ來レル事情モアリ南洋方面ニ對スル政府ノ態度ヲ明確ナラシメ輿論ヲ指導センカ爲二十九日ノ放送ヲナシタル次第ナルカ其ノ後ノ外交施策トシテハ蘭印ニ對シテハ通商協定ノ締結ヲ促進シツツアリ英國ニ對シテハ緬甸及香港ヨリスル援蔣物資ノ輸送禁遏ヲ實行セシメタル外近ク佛印ニ對シ我方ノ對重慶軍事行動ニ便宜ヲ與フルコト及經濟提携ニ關スル取極ヲ結フ爲交渉ヲ開始シ度キ意向ナリ御含ミ迄委細ハ山田事務官ヨリ御聽取相成度

冒頭貴電ト共ニ北京、上海、天津、漢口、廣東、香港ニ轉電セリ

(付記二)

一五、七、一五

一、客月二十九日ノ外務大臣「ラヂオ」放送「國際情勢ト帝國ノ立場」ハ元來國內ニ於テ蘭印問題ニ關スル意見區々タルニ鑑ミ右ニ或ル程度ノ指針ヲ與フル目的ヲ以テ當初聲明ノ形式ニテ目論マレ外務大臣ヨリ其ノ意向ヲ閣議ニ報告シタル處内閣ニ於テハ之ヲ以テ内閣ノ延命策トナサントノ魂膽ヨリ過早ニ之ヲ新聞記者ニ發表シ之ニ引摺ラレ未タ省内ノ意見モ充分練レサルニ拘ラス「ラヂオ」放送ノ形式ニ於テ之ヲ行ヒタルモノナリ

放送ノ前日陸海軍ト協議シタル處軍部ニ於テハ斯ノ如キ放送乃至聲明ヲナス爲ニハ之ニ先立チ所要ノ外交手段ヲ講シ我カ外交方針ノ遂行カ大体見透シ立ツコトヲ前提トスルモノナルカ未タ何等斯ノ如キ手ヲ打ツコトナクシテ放送ヲナスハ有害無益ナリトノ意見出テタルモ既ニ其ノ日ノ午前四相會議ニ於テ放送ノ件ヲ可決シ居ル爲如何トモナシ難ク從テ成ヘク無害ノモノタラシメンカ爲放送ノ調子ヲ「トーン・ダウン」スルコトナレリ



右放送ニ先立ち外務省側ヨリ右放送カ相當テキパキシタルモノナルヘシトノ具体的印象ヲ新聞記者ニ與ヘタル事實アリ而モ放送自体ハ前記ノ如キ事情ニ依リ「トーン・ダウン」サレタル爲新聞中右ハ軍部ノ横槍ナリト發表シタルモノアリ之カ爲外務、陸軍間ニ一時感情ノ疎隔ヲ見タルカ雙方上層部ニ於テ妥結點ヲ發見解決シ共同聲明ヲナシタルコト當時新聞發表ノ通りナリ

二、右様ノ事情ニテ「ラヂオ」放送ハ帝國ノ外交方針乃至施策ト無關係ニナサレタル爲右放送ニ關聯セル新決定或ハ申合等ノ如キモノハナキモ(但シ聲明ノ骨子トシテ書カレタルモノニシテ七月九日出來上リタルモノ別紙ノ通)<sup>(見別紙)</sup>最近ニ於ケル對第三國外交ノ概況左ノ通

(イ) 對伊

五月二十一日「ム」ハ佐藤ニ對シ伊ハ蘭印ニ關シテハ既ニ日本ノ立場ニ對シ十分理解アル態度ヲ示セリ伊ハ極東ニ於テ別ニ「インタレスト」ヲ有セス日本カ佛印ヲ占領スルナリ併合スルナリ自由トセラレ度伊トシテハ何等之ニ異議ナク當然ノコトト考フル旨ヲ述ヘ尙獨逸ノ見解トシテ獨逸ノ植民地復活ハ阿弗利加ニ限ラレ

極東ニ手ヲ伸ハスカ如キ考ハ一切ナシト承知スル旨答ヘタリ

(ロ) 對獨

七月八日「リ」ハ佐藤ニ對シ「ム」程ノ明瞭ナル答辯ハナカリシモ歐洲及阿弗利加ハ獨伊、東亞ハ日本、其ノ餘ノ亞細亞ハ蘇聯ノ各分野トナリ之ニ米國ヲ加ヘ各區域間ノ主人公タル國々ニ於テ自己消費ノ剩餘ヲ交易スルコトナルヘキ旨ヲ答ヘタリ

對獨問題ニ關スル措置案別紙ノ通<sup>(見別紙)</sup>

(ハ) 對蘭印

我方ノ必要トスル資源ノ確保ニ付目下交渉中近ク酒匂大使特使トシテ赴任ノ筈

(ニ) 對佛印

援蔣「ルート」ノ禁絶ニ付テハ承知ノ通目下佛印ノ領土保全ノ對償トシテ對重慶日佛軍事協力及經濟提携問題ニ關シ交渉ノ筈

(ホ) 對英

緬甸「ルート」及香港ノ援蔣行爲排除ニ關スル交渉ノ結果別紙ノ通<sup>(見別紙)</sup>



(へ)對米

最近ノ米側提出文書別紙<sup>(見当ラス)</sup>ノ通

18 昭和15年7月26日

通商局第一課作成の「對外經濟政策大綱」

對外經濟政策大綱

(十五、七、一二六)

日滿支及南洋地方ヲ以テスル經濟圈ノ樹立ヲ目標トシ現下國際情勢及戰後ノ事態ニ對處スル爲特ニ左記諸點ニ留意シテ適正ナル施策ヲ行フモノトス

(一)日滿支三國ノ經濟体制ヲ整備シ右地域内ニ於ケル互助聯關關係ヲ強化スルモノトス

(二)南方諸地域ニ對スル經濟的進出ニ努メ特ニ佛領印度支那ニ關シテハ我方南洋進出ノ據點トスルニ適スル地理的地位ニ鑑ミ現下ニ於ケル政治的情勢ヲ利用シ時機ヲ失セズ適正ナル施策ヲ行ヒ我方地位ノ確立ニ努ムルモノトス

(三)我方經濟自給圈確立ニ關聯シ必要ニ應ジ諸外國ノ經濟圈組成特ニ獨伊ヲ中心トスル歐洲及阿弗利加ニ於ケル經濟

圈ノ組成ニ對シ援助ヲ與ヘ又ハ之ヲ承認スルコトアルベク彼我兩經濟圈間ノ相互援助關係ノ増進ニ努ムルモノトス尤モ獨伊ニ對シテモ我方經濟圈ノ確立ニ支障ヲ來スガ如キ約束ヲナスコトナキ樣留意スルモノトス

(四)我方經濟圈ノ結成ニ關シ英米側ト多少ノ磨擦<sup>(摩カ)</sup>ノ生ズルハ已ムヲ得ザルモノトス、尤モ我方經濟圈結成ハ一舉ニ之ヲ爲シ得ザル現狀ナルニ鑑ミ英米兩國トノ關係ニ付テハ充分注意ヲ拂ヒ先方ヲシテ我方政策ニ同調セシムル樣誘導スルニ努メ之ガ爲我方施策ノ時期及程度ニツキ適正ナル按配ヲナスベキモノトス

(五)通商貿易ニ關シテハ貿易協定ノ締結等ニ依リ列國トノ經濟關係ヲ調整シ輸出貿易ノ振興ト帝國ノ不足資源ノ獲得トニ力ヲ致シ特ニ左記諸點ニ留意スルモノトス

(イ)日滿支三國ノ對外經濟政策ニ關シ緊密ナル連絡ヲ圖リ能フ限り日滿支ヲ一体トシ之ト諸外國トノ經濟關係ノ調整増進ヲ計ルコト

(ロ)帝國產業貿易ノ特定國ニ對スル偏在的依存關係ノ是正ニ努メ、南洋地方ハ勿論中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟的進出ニ付テモ留意スルコト

(ハ) 求償乃至互惠主義ニ重點ヲ置クコト

(ニ) 當該相手國トノ政治的關係利導ニ努ムルコト

(ホ) 採算上多少ノ不利ヲ忍ヒテモ不足重要資源ノ確保ニ努ムルコト

(六) 交戰國中立國商權侵害及壓迫問題ニ付テハ我方必要物資ノ獲得ヲ阻害セサルコト竝ニ我方政治的立場ニ重大ナル支障ヲ來ササルコトヲ主眼トシテ之ヲ解決調整ヲ計ルモノトス



19 昭和15年7月27日

### 拓務省作成の「南方對策」

南方對策 (未定稿)

昭和十五年七月廿七日

拓務省

内閣成立以來未ダ對南方方針ヲ明示セラレサルモ世界狀態ノ變化ハ寸刻ヲ忽ニス可ラサルノミナラズ現地企業關係者ノ輿論モ沸騰シ居ルヲ以テ此際左ノ諸點ニ關シ速ニ方針ヲ決定セラレ度

一、根本方針ニ付テ

佛印蘭印ニ對シテ吾國トシテ此際如何ナル手ヲ打ツ可キ乎ハ根本的ニ日本ノ肚ヲ如何ニ極メルカニ在リ此根本ガ不確定ニシテ日和見の態度ナル以上對南方施策モ自ラ姑息ニ陷ラサルヲ得ズ

獨逸ノ佛蘭西征服前又ハ鈔クトモ英國攻撃前ナラバ幾分考慮ノ餘地モ存シタルガ今日トナリテハ右乎左乎一刻モ速ニ決定ノ要アリ而シテ其ノ方向ハ此際躊躇スル處ナク實力行使ノ肚ヲ極ムルニ在リ然ラザレバ我國ノ南方發展ハ永久ニ不可能ナルノミナラズ内ニ在リテハ糜爛セル國民生活ノ狀態ヲ健全體ニ再建スルコト亦不可能ナル可ク斯クシテ遂ニ國家ノ衰頹ヲ來サンコトヲ虞ル

二、消極的方針ニ付テ

若シ前項ノ根本方針ヲ決定スルコト能ハサルニ於テハ如何ナル要求ヲ爲スモ所詮姑息ノ措置タルヲ免レズト雖最少限度左ノ要求ヲ貫徹セシムルヲ要ス

(1) 佛印蘭印兩地方ニ於テ日本人ニ對シ佛蘭西人又ハ和蘭人ト同等ノ地位ヲ保有セシメ企業上ノ自由ヲ認メシムルコト

(2)從ツテ從來同地方ニ於テ吾經濟的進出ヲ阻ミツツアル諸原因即時撤去セシムルコト

詳細ハ別紙甲號、乙號説明書參照

三、經濟的發展方策ニ付テ

農林、水産、鑛工業、海運、電氣及通信ノ諸事業ヲ綜合的ニ經營スル爲メ一大國策會社ノ設立ヲ必要トス

詳細ハ別紙説明書參照

四、交渉使節ノ派遣ニ付テ

交渉使節ヲ派遣スルモ根本ガ積極的ナラサル場合ニ於テハ殆ト交渉ノ餘地ナカル可シ而シテ積極方針ノ下ニ於テ使節ヲ派遣スル場合ハ日本ヲ代表スル人物タルコトヲ要ス其ノ官、民何レヨリ撰フトスルモ現ニ當該地方ニ於テ奮闘シツツアル企業家代表ハ是非同行セシムルノ要アリ蓋シ今日トナリテハ交渉ト並行シテ企業の實地調査ヲ爲ス位ノ準備ヲ以テ臨ムコトガ關係者ノ興望ニ副フ所以ナレバナリ

甲 號

佛領印度支那ガ本邦ト一衣帶水ノ地ニ横ハリ地理的ニ最モ

近接セルニ拘ラズ現今尙他ノ外南洋諸地方ニ比シ經濟的關係ノ極メテ稀薄ナルハ左ノ如キ諸原因ニ基クモノニシテ、此等各種障礙ヲ除去シ本邦ノ移植民及拓殖事業ヲ強力ニ促進セシムル必要ヲ痛感ス

一、一般的原因

1.佛蘭西ガ傳統的ニ自國民及自國製品保護ノ爲佛領印度支那ニ對シテ極端ナル排外政策ヲ採用セルコト

2.右ノ排外政策ノ爲外國資本流入セズ領内産業ノ開發遲レ、諸外國特ニ本邦人ノ當領ニ對スル關心ヲ低下セシメタルコト

3.本邦ノ進出ヲ極端ニ恐レ排日行動ヲ爲セルコト、特ニ支那事件勃發ニ伴ヒ此ノ傾向ハ益々顯著ナリ

二、入國制度

從來入國ニ對シテハ入國金賦課ノ外法規上ニ於テハ何等ノ制限モ附サレ居ラザリシモ、今次歐洲大戰勃發ト共ニ出發前ニ上陸地官憲ノ入國許可ヲ必要トスルコトナリ、入國ニ困難ヲ來スニ至レリ。而シテ邦人ノ入國ニ障礙トナルハ右ノ外一九三四年外國人雇傭制限令公布セラレ本國人雇傭人數ノ二割ヲ限り外國人使用者ヲ許可サル事

トナリ、邦人商社ノ如キ小規模ノモノハ邦人使用人ヲ新ニ使用シスル事殆<sup>レ</sup>シト不可能ノ狀態ニ在リ。尙本令公布以前ノ使用人ニハ適用セラレザルモ佛印當局ニ於テハ漸次本令ノ適用ヲ擴張セントスル意嚮ナリ

### 三、農林企業ニ關スル制限

農林企業ニ對シ外國資本ノ參加ハ別ニ制限ナキモ農企業ノ基本トナル土地ノ取得ニ付次ノ如キ支障アリ、即チ直轄植民地並ニ各保護國ニ於テハ外國人ニ對シテハ原則トシテ土地ノ所有權ヲ認メザル規定存ス、而シテ大面積ノ土地ハ官有地ノ租借ニ依ツテ取得スル方法存スルモ之ガ租借ヲ許可セラルル者ハ一九二八年十一月四日附大統領令ニ基キ個人ニアリテハ佛國人、同籍民及保護國民ニ限ラレ會社ニアリテハ佛國法ニ基キ設立セラレ本社ガ佛國及其ノ他ノ植民地或ハ保護國ニ所在スル佛國資本ガ過半ヲ占メ且社長及取締役ノ過半數ガ佛國人、同籍民及保護國民タル資格ヲ有スル會社ニ限ラル。

以上ノ如キ制限アルヲ以テ自由ニ土地ヲ取得シ得ズ結局邦人ノ農林企業進出ハ重大ナル支障ヲ蒙ル結果トナリ居レリ。

### 四、水產業

法規上支那人ヲ除ク外國人ニハ沿岸漁業ハ禁止サル

### 五、鑛業

現行、規定ニ於テ鑛區ノ調査又ハ採掘ヲ目的トスル者ハ個人ニ在リテハ、佛國民同籍民又ハ保護國民ニ限ラレ會社ニ在リテハ本社ヲ佛國又ハ其ノ植民地或ヒハ保護國ニ有シ佛國資本ガ過半ヲ占メ且ツ重役ノ四分ノ三ガ佛國民、同籍民又ハ保護國民タル會社ニ限ラル

結局邦人ノ鑛業進出ハ他人名義ノ鑛山ヲ經營スルカ又ハ前記ノ如キ不利益ナル條件ノ合辦會社ニ依ラザルベカラズ

### 六、工業

工業經營ニハ何等ノ制限無キモ工場用敷地取得ニ付困難アリ

### 七、貿易

1 印度支那自体ガ一般二十分ナル經濟開發ガ行ハレ居ラザルコト

2 特ニ本邦ニ對シテハ關稅問題ノ爲輸出入共盛ナラズ即チ印度支那ガ通商條約ノ自由締結權ヲ有セズ、日本ガ

佛蘭西本國ノ了解ナシニ之ニ對シテ積極的ニ動キ得ザルコト

印度支那ハ他ノ佛蘭西植民地ト同様本國ノ決定スル關稅政策ニ服從スベキ規定ナルヲ以テ在住佛蘭西人及佛蘭西本國ノ印度支那關係業者ガ組織スル印度支那商工會ガ同領ノ關稅政策ニ對シテ決定權ヲ有シ、外國商品ノ消費者タル土民ノ利益ハ全ク考慮サレズ從ツテ地理的條件價格ノ低廉等ノ好條件ヲ具備セル邦品モ佛印ニ於テハ佛蘭西品保護ノ爲最惠國待遇ヲ與ヘラレズ不當ナル高率關稅ヲカケラレツツアリ、爲ニ邦品ノ進出ハ極メテ困難ナリ

## ハ、商業

直接商店ノ經營ニ對シ法規上禁止無キモ邦品取扱ヒヲ本業トナス邦商ハ高率關稅ノ爲邦品ガ多量ニ輸入サレズ又外國人従業員ノ制限金融機關(邦人經營)無キ等ノ爲發展スルヲ得ズ現在ニテハ反ツテ後退ノ余儀無キ狀態ニ在リ

## 乙 號

蘭印ニ對スル我が發展上ノ障礙除去ニ關スル要求

我國ノ蘭印ニ對シテ希求スルトコロハ

一 其ノ包藏スル豐富ナル資源ノ開發ニ付キ我が邦人ガ自由且積極的ニ參加シ得ルコト

二 我が商品ノ同地方ヘノ輸入ヲ自由ナラシムルト共ニ同地方ニ於ケル重要物資ノ我國ヘノ輸入ヲ確保スルコトニ在リ然ルニ從來蘭印ガ我國ニ對シテ執リ來レル政策ハ彼上ノ目的ヲ達成スル上ニ於テ極メテ支障多ク現段階ニ於ケル邦人ノ發展ハ我國ノ念願スル所ニ比シ遙カニ低シ右ハ次ニ述ブルガ如キ種々ノ障礙ノ存スルガ爲ニ外ナラザルヲ以テ此ノ際速カニ左ノ要求ヲ貫徹シ蘭印ニ對スル經濟的發展ヲシテ圓滑ナラシムルノ要アリ

## 第一 入國制限ノ撤廢

蘭印ニ入國シ得ル邦人ノ數ハ一年二千六百三十三人ナル處一九三五年外國人勤勞條令制定以來勤勞(極メテ廣義ニ解釋セラル)ヲ目的トスル入國ニハ豫メ使用主ニ於テ蘭印司法長官ノ許可ヲ必要トスルニ至レルガ其手續可ナリ面倒ニシテ許可ヲ受クルニ相當ナ日時ヲ要スルノミナラス申請ニ對シテ却下セラルルノ例乏シカラズ之ガ爲最近ニ於テハ邦人ノ實際入國數ハ年百二、三人ノ程度ナリ

尙入國稅トシテ一人當百五十盾(邦貨約三百三、四十圓)  
ヲ課セラレ居ル處此等ノ諸制限ヲ撤廢スルノ要アリ

## 第二企業ノ自由

蘭印ニ於ケル邦人ノ企業の進出ニハ極メテ不利不便多ク  
且企業上ノ制限ヲ加ヘラレ居ル處之等ノ不便ヲ除キ制限  
ヲ廢シ企業ノ自由ヲ認メシムルコト必要ナリ即チ

### (一)各種調査ノ自由ヲ認メシムルコト

各種ノ重要資源竝ニ諸般ノ事情ヲ調査セントスルニ當  
リ蘭印政府ハ極メテ警戒のニシテ特ニ日本政府自体又  
ハ國策會社ニヨル調査ノ如キ殆ト不可能ナリ右調査ハ  
經濟の進出ノ不可缺要件ナルヲ以テ之ガ自由ヲ認メシ  
メ且調査ニ際シ便宜供與方承認セシムルコト必要ナリ  
(二)各種利權ノ獲得ヲ自由ナラシムルコト

現在ニ於テハ或ハ法規ニ依リ或ハ官廳ノ裁量ニ依リ各  
種ノ拘束ヲ受ケ邦人ノ利權獲得ハ極メテ困難ナルヲ以  
テ之ヲ是正セシメ利權獲得ヲ自由ナラシムルノ要アリ  
即チ

(イ)栽培業關係ニ於テハ土地ノ租借、伐採權獲得等頗ル  
困難ニシテ事業經營上ニ於テモ種々ノ不利不便ヲ忍

バザルベカラザル狀態ニアリ

(ロ)鑛業ニ付テハ蘭印政府ハ一般ニ開放セザルノ方針ニ  
シテ各地方ニ亘リ保留地帶ヲ設定シ居ルノミナラズ  
石油、石炭等ノ如キ可燃性鑛物ニ付テハ鑛業法ニ嚴  
格ナル制限規定ヲ設クル等英米ニ比シ斯ノ方面ヘノ  
進出上立チ遅レタル我國トシテハ殆ト斯業ヘノ進出  
ヲ拒否セラレ居ル狀態ナリ

(ハ)水産業ニ付テハ外國人ニハ沿岸漁業權認メ居ラレザ  
ルヲ以テ邦人ノ進出上支障多ク爲ニ往々ニシテ領海  
侵犯ノ嫌疑ニヨル不幸ナル事件ノ發生ヲ見ツツアリ  
(ニ)倉庫、印刷等數種ノ營業ニ付テハ營業制限令ニ依リ  
總督ニ廣汎ナル營業禁止ノ權限ヲ與ヘ居リ邦人ノ斯  
種營業經營ハ全ク不能ノ實情ニ在リ

(ホ)東部地方ニ於テハ從來開港上タリシモノニシテ近年  
閉鎖セラレタルモノ尠カラズ又沿岸航路ハ殆ト外  
國人ニハ許與セラレザル狀態ニアリ

### (三)爲替管理ヲ撤廢又ハ緩和スルコト

以上ノ如キ障礙アル外最近ニ於テハ蘭印爲替管理強化  
セラレタル爲邦人ノ本國ヘノ送金其ノ生産物ノ本國ヘ

ノ無爲替輸入ハ全ク不可能トナレルガ之等ノ制限ヲ撤  
廢又ハ緩和セシムルコト肝要ナリ

第三日本商品ノ蘭印輸入ニ對シ加ヘラレタル制限ノ撤廢又  
ハ緩和

蘭印ハ一九三三年以來各種ノ輸入商品ニ對シ輸入制限ヲ  
加ヘ割當制ヲ實施シ居レル處之ニ依リ最モ打撃ヲ蒙リ居  
ルハ日本商人及日本商品ナリトス蘭印ガ我が商品ノ重要  
ナル市場ナル點ニ鑑ミ此等ノ制限ヲ撤廢又ハ緩和セシム  
ルノ要アリ

第四本邦必需物資ノ供給確保

歐洲大戰ノ推移竝ニ米國ノ動向ニ鑑ミ我國必需物資ノ供  
給ヲ南方地方ニ求ザルベカラザルノ趨勢ニアル處蘭印ニ  
對シテハ生ゴム、錫、鑛油、ニツケル鑛、ボーキサイト、  
滿俺、屑鐵、工業鹽、ヒマシ、規那皮、モリブデン、ク  
ローム鑛等ノ供給ニ付キ蘭印政府ヲシテ輸出義務ヲ負フ  
等之ヲ確約セシムルノ要アリ

第五邦人ノ出入、通信等ニ對スル取締ノ緩和

獨乙軍ノ和蘭本國進攻以來蘭印ニ於テハ外國人ノ出入ニ  
對スル取締ハ嚴重苛烈ヲ極メ又通信上ニ於テハ用語ノ制

限、檢閲ノ強化等ニ依リ邦人ノ自由ナル活動ヲ阻害セラ  
ルルコト頗ル大ナリ邦人ノ往來、居住、營業等ノ自由ヲ  
確保スル爲右ノ如キ苛酷ナル取締ヲ緩和セシムルヲ要ス



20 昭和15年7月27日

歐洲戰対策審議委員會幹事會が作成した「帝  
國外交方針案」

帝國外交方針案(昭和一五、七、二七、幹事會決定)

○一般方針

帝國外交ノ基本目標ハ、肇國ノ本義ニ則リ、日滿支三國ノ  
鞏固ナル結合ヲ根幹トシテ南方諸地域トノ間ニ政治的經濟  
的共榮圈ヲ確立シ、以テ南洋ヲ含ム東亞ノ新秩序ヲ具現シ、  
進テ世界ノ新秩序ヲ招來スルニアリ

而シテ當面ノ外交施策ニ於テハ支那事變ノ處理ニ重點ヲ置  
キツツ前記新秩序建設ニ必要ナル對列國關係ノ利導及調整  
ニ努力スヘク、歐洲戰爭ニハ差當リ介入セス且東亞ニ對ス  
ル他ノ干渉ヲ許サス、歐米情勢ノ推移ヲ冷靜ニ秤量シ、歐  
洲戰後ノ世界新秩序ニ於ケル帝國ノ地位ヲ確保スル爲自主

豁達ナル對列強施策ヲ行フ

○當面ノ施策

第一、支那事變對處方針

一、日滿支三國間ノ關係緊密化ニ關シテハ既定方針ニ依リ着々之ヲ實行シ、列國ヲシテ之ニ同調シ來ルノ已ムナキニ至ラシム

二、支那事變處理ハ速ニ新政府ヲ育成承認シ重慶ノ崩壞ヲ促進スルノ方針ニ依ル、但シ右ト併行シ重慶トノ停戰、索<sup>(幸カ)</sup>イテハ日支間ノ全面的和平ノ再建ヲ實現シ得ルカ如ク施策スルヲ妨ケス

前項支那事變處理ノ爲我方二次第三國ノ新政府ニ對スル正式承認ノ促進ヲ計リ、且第三國就中獨、伊、英、米ヲ利用シ、重慶ヲシテ抗戰放棄ニ至ラシムル如ク施策ス

三、帝國ノ支那ニ於テ占ムヘキ政治上經濟上ノ優越性ニ鑑ミ、支那ニ於ケル第三國ノ通商上ノ無差別待遇ハ日滿支國防上ノ重大ナル要求ニ反セサル限り之ヲ容認シ、且列國ノ事變ニ對スル同調性ニ應シ我方ニ於テ之ニ協力ス

四、九國條約問題ハ我方指導ノ下ニ機ヲ見テ先ツ支那政府ヲシテ否認手段ヲトラシム

五、支那ニ於ケル舊國際秩序ノ調整ハ日支關係ヲ睨合セ帝國ノ指導下ニ之ヲ行ハシム

六、支那事變ノ終結前、支那以外ノ部面ニ於テ、事變終結ト直接關係ナキ帝國ノ實力消耗ハ之ヲ慎ム

(註) 新中央政府ノ對第三國外交政策ニ關スル我方ノ指導方針ハ別ニ之ヲ定ム

第三、歐洲戰爭對處方針

一、歐洲戰爭ニ對シテハ差當リ介入セス且東亞ニ對スル他ノ干涉ヲ許サス、帝國ノ自主的立場ヲ最有效ニ活用シ、支那事變處理ノ促進ニ資スルト共ニ、南方ヲ含ム東亞新秩序ノ建設ニ對シ有利ノ形勢ヲ釀成スル如ク施策ス

二、帝國ノ東亞新秩序建設ニ同調シ、世界新秩序建設ニ付帝國ト提携シ得ル國家トノ間ノ政治的經濟的紐帶ヲ強化シ、之ニ反スルカ如キ國家ヲ牽制利導ス

三、帝國カ支那以外ニ於テ實力ヲ行使スルノ余儀ナキニ至ル場合ニ備ヘ、充分ナル研究ト準備トヲ整ヘ、遺憾ナキヲ期ス

四、歐米ノ世界新秩序建設ノ主義政策ヲ注視シテ、常ニ右建設ニ對スル帝國ノ立場ヲ有利ナラシムル如ク適宜ノ工作



ヲ行フ

第三、南方諸地方對處方策

一、南方諸地方ニ對スル我政治經濟上ノ指導權ヲ確保スルト  
共ニ、諸民族ヲ歐米勢力ノ植民地の搾取ヨリ解放シ、其  
自主獨立ヲ扶掖シテ南洋ヲ含ム東亞共榮圈ヲ確立スルコ  
トハ我南方政策ノ目標タリ、歐洲政局ノ新情勢ハ南洋ニ  
對シ積極的ナル施策ヲ行ヒ、我指導權確保ヲ促進スヘキ  
好機ナルヲ以テ、國防資源ノ見地ヨリ先ツ經濟的發展ヲ  
計リテ支那事變處理ノ促進ニ資シ、進テ情勢ニ應シ政治  
的指導權ノ確立ヲ期ス

南洋ノ資源ハ必スシモ獨占スルコトナク、第三國ノ公正  
ナル經濟活動ハ之ヲ許容シ、他經濟圈トノ有無相通ヲ圖  
ル

(註)南方諸地域ハ佛印、タイ、ビルマ、馬來、フィリッ

ピン、蘭印、葡領チモールヲ中核圈トシ濠洲、新西

蘭、ニューカレドニア、大洋洲諸島ハ之カ外廓圈ヲ

形成スルモノトス

二、各諸地方ニ對シテハ左記ノ如ク施策ス

(イ)佛印ニ對シテハ東亞共榮圈ノ一環トシテ帝國ノ政治的

經濟的勢力ノ進出ヲ認メシメ、將來ハ之ヲ獨立セシメ  
テ帝國ノ指導下ニ置ク、尙佛領ニューカレドニアヲモ  
將來我政治的指導下ニ置ク

(ロ)蘭領印度ニ對シテハ獨、英、米トノ關係ヲ衡量利導シ  
ツツ適宜壓力ヲ加ヘテ政治的經濟的進出ヲ圖ル

(ハ)「ビルマ」ハ英帝國崩壞ト共ニ獨立ニ導キ、マレー、  
英領ボルネオ等ハ我カ政治的指導下ニ置ク

三、南洋華僑ヲシテ我支那事變處理ニ同調セシムルト共ニ我  
南洋經濟發展ニ協力セシム

第四、對列強關係調整方針

一、對獨伊關係

世界新秩序建設ニ關スル共同ノ目的達成及歐洲戰后ノ世  
界情勢ニ對處シテ帝國ノ國際的立場ヲ鞏固ニセンカ爲、  
日獨、日伊間ニ速ニ緊密ナル協力關係ヲ具現ス

右協力ノ骨子左ノ通トス

(イ)獨伊ヲシテ南洋ヲ含ム東亞カ帝國ノ生存圈タルコトヲ  
尊重セシメ、右地方ニ於ケル日本ノ政治的指導及協力  
ヲ容認セシム

帝國ハ獨伊ノ「アフリカ」ヲ含ム歐洲ノ新秩序建設ニ

同様ナル態度ヲトル

(ロ)獨伊ヲシテ歐洲及「アフリカ」トノ通商其ノ他經濟關係ニ付、我方ニ好意的態度ヲトラシメ、東亞共榮圈ト有無相通關係ヲ圓滑ナラシム

帝國ハ支那及滿洲ニ於ケル獨伊ヘノ物資ノ供給竝ニ支那及南洋ニ於ケル獨伊ノ經濟的活動ニ好意的考慮ヲ加フ

(ハ)獨伊ヲシテ支那事變處理ニ同調セシムルト共ニ、我方ハ出來得ル限り英國ノ屈服ヲ容易ナラシメンカ爲、東亞ニ於テ英國ヲ牽制ス

(ニ)對ソ對米關係ニ付獨伊ヲシテ帝國ノ政策ニ同調セシム  
二、對露方針

ソ聯ハ歐洲戰ニ對シ中立的態度ヲ維持シツツ周邊ヲ掠メ、自國ノ國防力強化ニ專念スルト共ニ支那事變ニ對シテハ抗日政權ヲ通シテ其長期化ヲ企圖シツツアルヲ以テ帝國ハ東亞共榮圈建設ニ專注センカ爲、「ソ」聯トノ間ニ力メテ平和關係ヲ維持シ、諸懸案ノ解決ヲ計ルト同時ニ、兩國ノ友好増進ヲ内容トスル中立條約ノ交渉ヲ促進スルモ、對「ソ」防備ヲ嚴ニシテ國防の間隙ヲ作ラス、「ソ」

聯ノ進出ヲ近東及西方ニ導ク

尙「ソ」聯外交ノ一翼トシテ暗躍スル「コミンテルン」ノ策動ニ對シ警戒ヲ怠ラサルヲ要ス

三、對米方針

米國ハ目下歐洲戰爭ニ當リ對英援助ヲ積極化スル一方獨伊ノ歐洲制覇ヲ豫想シ、ソノ政治思想及ヒ金融資本制度ニ重大ナル脅威ヲ感シ、軍備擴充、中南米ニ對スル把握強化ニ努力スルト共ニ、東亞ニ於テハ帝國ノ新秩序建設ヲ好マス、其政治及經濟的勢力ヲ確保セムト努力シツツアリ、依テ米國ニ不利ナル國際狀勢ヲ誘致シ米國ヲシテ東亞(南洋ヲ含ム)新秩序ノ完成ニ對スル我不動ノ決意、体制及之カ實行力ヲ感得セシムル爲左ノ如キ施策ヲ進ム  
(イ)米國ニ對シ帝國ノ世界平和ニ關スル主張(通商ノ自由、領土資源ノ再分割、各大陸間ノ不干渉主義、人種平等及軍縮)ヲ強調シテ之ニ聽從セシムル如ク工作スルト共ニ、漸次帝國ノ東亞政策ヲ明示シテ其反省同調ヲ要求シ、日米通商條約ノ如キ具體的問題ニ付テハ我ヨリ焦慮スルカ如キ態度ヲ示サス、常ニ公正ニシテ嚴然タル態度ヲ持ス

四、對英方針

- (ロ)米國ト一戰ヲ辭セサルノ態勢ヲ堅持シ、米國政府及國民ニ對シ對日壓迫策ハ帝國ノ經濟利益ニ反シ且日米戰爭ノ危險性ヲ胎ムモノナルコトヲ理解セシムル様施策ス
- (ハ)米國ヲシテ援蔣行爲ヲ停止シ、東亞(南洋ヲ含ム)新秩序建設ニ關スル帝國ノ施策ヲ妨害スルノ態度ヲ是正セシムルト共ニ東亞新秩序建設上支障ナキ限リ米國ノ主張ヲ容認シ、日米間ノ懸案ヲ解決シ又米國ノ融資ヲ利用スルヲ妨ケス
- (ニ)現下ノ世界狀勢ヲ利用シ、且獨、伊、西各國ト協力シテ帝國ノ中南米工作ヲ推進シ、米國ノ東亞(南洋ヲ含ム)問題容喙ヲ掣肘シ、ソノ反省ヲ促進ス
- (ホ)對米施策ニ當リテハ適宜獨伊ヲ利用シ、漸次米國對獨伊ノ衝突激化ヲ誘導スル如ク努ム
- (ヘ)米洲大陸ニ於ケル共產運動等ノ反米的色彩及行動ヲ強化セシムル等ノ方法ニ依リ米蘇離間ヲ計ル
- (ト)米國ニ對シテハ政治的宣傳ニ重點ヲ置キ、ソノ宣傳方法及機構ヲ整備ス

- 英國ハ東亞ニ於ケル脆弱ナル立場上事變處理ニ同調セサルヲ得サル情勢ナルニ顧ミ、右促進ニ努ムルト共ニ、進ンテ英國ヲシテ政治的軍事的ニ南洋ヲ含ム東亞ヨリ手ヲ引カシメ、英帝國ノ瓦解ニ至ラシムルカ如キ方向ニ於テ施策ヲ行フ、但シ英ノ有スル國際資源及經濟組織ノ強韌性並ニ英資本ノ土着性ニ鑑ミ、之ヲ利用シ我カ國力ノ培養及東亞新秩序建設ニ資ス
- (イ)英國ノ援蔣行爲拋棄ヲ徹底セシメ、支那方面ニ於ケル政治上軍事上ノ特權ヲ放棄スルノ已ムナキニ至ラシム
- (ロ)新中央政府トノ連絡ノ下ニ、英國ノ新政府ニ對スル協力(代表ノ派遣)及占領地域内ニ於ケル純經濟上ノ協力ヲ誘致ス
- (ハ)南洋方面ニ對スル帝國ノ政治的經濟的發展ニ協力シ、少クトモ之ヲ阻害セシメス
- (ニ)英本國及其ノ屬領トノ通商諸懸案ニ關スル交渉ヲ進メ、我カ國力培養ヲ計リ、英帝國諸地域トノ通商障害ヲ除去ス
- (ホ)前三項ニ關聯シ英國ノ合理的ナル經濟上ノ要求ハ之ヲ容認ス

(ヘ)獨伊トノ提携ニ依リ英ノ蘇及米トノ協力體制成立ヲ牽制ス

(ト)對英問題ノ解決ニハ脅迫の及宣傳の態度ヲ慎ムモ、英國ニシテ我カ要望ニ應セサルニ於テハ、獨伊陣營ト協力シ或ハ我方單獨ニテ自主の二實力行使ヲナスニ至ルヘキコトヲ含ミトシテ殘シ置クモノトス

#### 五、對佛方針

(イ)佛國ハ既ニ歐洲戰爭ニ於テ敗レ、二流國ニ顛落シ、獨逸ノ傘下ニ入ルニ至レルコトヲ考慮シ、帝國ノ事變處理ニ對スル同調及援蔣行爲停止等ニ付テハ尙我カ要望ヲ着々實行セシムルニ努力スルト共ニ、其ノ金融力ニシテ利用シ得ル余力アルニ於テハ、之ヲ東亞新秩序建設ニ適宜利用ス

(ロ)佛印ニ對シテハ別項第二南方諸地方對處方策ニ、(イ)ニ依ル

#### 第五、對外經濟政策大綱

日滿支及南洋地方ヲ以テスル經濟圈ノ樹立ヲ目標トシ、現下國際情勢及戰後ノ事態ニ對處スル爲特ニ左記諸點ニ留意シテ適正ナル施策ヲ行フ

一、日滿支三國ノ經濟體制ヲ整備シ右地域内ニ於ケル互助連環關係ヲ強化ス

二、南方諸地域ニ對スル經濟の進出ニ努メ、先ツ佛領印度支那ニ關シ現下ニ於ケル政治的情勢ヲ利用シテ、時機ヲ失セス適正ナル施策ヲ行ヒ、我方地位ノ確立ニ努ム

三、我方經濟自給圈確立ニ關聯シ、必要ニ應シ諸外國ノ經濟圈組成特ニ獨伊ヲ中心トスル歐洲及阿弗利加ニ於ケル經濟圈ノ組成ニ對シ援助ヲ與ヘ、又ハ之ヲ承認スルコトアルヘク、彼我兩經濟圈間ノ相互援助關係ノ増進ニ努ム、尤モ獨伊ニ對シテモ我方經濟圈ノ確立ニ支障ヲ來スカ如キ約束ヲナスコトナキ樣留意ス

四、我方經濟圈ノ結成ニ關シ英米側トノ間ニ多少ノ摩擦ノ生スルハ已ムヲ得サルモノトス、尤モ我方經濟圈結成ハ一舉ニ之ヲ爲シ得サル現狀ナルニ鑑ミ、英米兩國トノ關係ニ付テハ充分注意ヲ拂ヒ、先方ヲシテ我方政策ニ同調セシムル樣誘導スルニ努メ、之カ爲我方施策ノ時期及程度ニツキ適正ナル按配ヲナスヲ要ス

五、通商貿易ニ關シテハ貿易協定ノ締結等ニ依リ列國トノ經濟關係ヲ調整シ、輸出貿易ノ振興ト帝國ノ不足資源ノ獲

得トニカヲ致シ、特ニ左記諸點ニ留意ス

(イ)日滿支三國ノ對外經濟政策ニ關シ緊密ナル連絡ヲ圖リ、能フ限り日滿支ヲ一体トシ之ト諸外國トノ經濟關係ノ調整増進ヲ計ルコト

(ロ)帝國產業貿易ノ英米兩國ニ對スル偏在的依存關係ノ是正ニ努メ、南洋地方ハ勿論、中南米及西南亞細亞方面ニ對スル經濟的進出ニ付テモ留意スルコト

(ハ)求償乃至互惠主義ニ重點ヲ置クコト

(ニ)當該相手國トノ政治的關係利導ニ努ムルコト

(ホ)採算上多少ノ不利ヲ忍ヒテモ不足重要資源ノ確保ニ努ムルコト

(ヘ)重要國防資源ノ供給地ニ付テハ戰時ニ於ケル航路ノ安全性ヲ考慮シ其選定ニ留意スルコト

六、交戰國ノ中立國商權侵害及壓迫問題ニ付テハ我方必要物資ノ獲得ヲ阻害セサルコト竝ニ我方政治的立場ニ重大ナル支障ヲ來ササルコトヲ主眼トシテ之ヲ解決調整ヲ計ル

(終)

21 昭和15年8月1日

「大東亜共榮圈」の確立を提唱した松岡外相談話

付記一 右英訳文

二 昭和十五年八月一日、内閣発表

「基本國策要綱」の英訳文

外務大臣談話

(昭和十五年八月一日)

私は年來皇道を世界に宣布することか皇國の使命であると主張して來た者でありますか、國際關係より皇道を見ますれば、それは要するに各國民、各民族をして各その處を得せしむることに歸着すると信するのであります。即ち我國現前の外交方針としてはこの皇道の大精神に則り、先づ日滿支を其一環とする大東亞共榮圈の確立を圖るにあらねばなりませぬ。之か聽て力強く皇道を宣布し公正なる世界平和の樹立に貢獻する道程に上る所以であります。而して、我國民はこの道程に横はるところの有形無形一切の障礙を排除するはもとより、更に進んで我に同調する友邦と提携不退轉の勇猛心を以て、天より課せられたる我か民族の理

想と使命の達成を期すべく、きんのこ堅く信じて疑はぬ者いふ  
るがため。

(中略)

Statement of Mr. Yosuke Matsuoka,

Minister for Foreign Affairs.

August 1, 1940.

I have always said that the mission of Japan is to proclaim and demonstrate the kodo throughout the world. Viewed from the standpoint of international relations, this amounts, I think, to enabling all nations and races to find each its proper place in the world. Accordingly the immediate aim of our foreign policy at present is to establish, in accordance with the lofty spirit of the kodo, a great East Asian chain of common prosperity with the Japan-Manchoukuo-China group as one of the links. We shall thus be able to demonstrate the kodo in the most effective manner, and pave the way toward the establishment of an equitable world peace. We should be

resolved to surmount all obstacles, both material and spiritual, lying in our path. Furthermore, in concert with those friendly Powers which are prepared to co-operate with us, we should strive with courage and determination for the fulfillment of the ideal and the heaven-ordained mission of our country.

(中略)

(Tentative translation)

Announcement by the Japanese Government

August 1, 1940.

The world stands at a great historic turning point, and it is about to witness the creation of new forms of government, economy, and culture, based upon the growth and development of sundry groups of states. Japan, too, is confronted by a great trial such as she has never experienced in history. In order to carry out fully at this juncture our national policy in accordance with the lofty spirit in which the country was founded, it is an important

task of urgent necessity to us that we should grasp the inevitable trends in the developments of world history, effect speedily fundamental renovations along all lines of government, and strive for the perfection of a state structure for national defense. Accordingly, the general lines of the country's fundamental national policies have been formulated as follows:

#### Summary of Fundamental National Policies.

##### 1. Basic Policy.

The basic aim of Japan's national policy lies in the firm establishment of world peace in accordance with the lofty spirit of Hakko Ichiu, in which the country was founded, and in the construction, as the first step, of a new order in Greater East Asia, having for its foundation the solidarity of Japan, Manchoukuo and China.

Japan will, therefore, devote the total strength of the nation to the fulfilment of the above policy by setting up swiftly an unshakable national structure of her own adapted to meet the requirements of new developments

both at home and abroad.

##### 2. National Defense and Foreign Policy.

The Government will strive for the repletion of armaments adequate for the execution of the national policies, by taking into consideration the new developments both at home and abroad, and constructing a state structure for national defense, capable of bringing into full play the total strength of the nation.

Japan's foreign policy, which aims ultimately at the construction of a new order in Greater East Asia, will be directed, first of all, toward a complete settlement of the China Affair, and the advancement of the national fortune by taking a far-sighted view of the drastic changes in the international situation and formulating both constructive and flexible measures.

##### 3. Renovation of Internal Structure.

What is urgently required in internal administration is the laying of the foundation for a state structure for national defense through a complete renovation of the

domestic administration in general, for which purpose the Government expects the realization of the following points:

- A. Renovation of education thoroughly in harmony with the fundamental principles of the national polity, and also the establishment of ethical principles of the nation stressing, above all, service to the state and eradicating all selfish and materialistic thoughts.
- B. Establishment of a powerful new political structure and a unified control of government affairs.
  - a. Establishment of a new national structure, of which the keynote lies in the service to the state through the co-operation between government and people, everyman according to his sphere of profession or business.
  - b. Renovation of the Diet as an organ for assisting the Throne, so as to adapt it to the new national structure.
  - c. Fundamental renovation in the operation of administrative organs, and the reformation of the bureaucracy, aimed at the unity and efficiency of those

---

organs.

- C. Laying the foundation of national defense economy, of which the keynote is to lie in the autonomous development of the economy of Japan, Manchoukuo and China with Japan as the center.
  - a. Establishment of a sphere of co-operative economies, with the Japan-Manchoukuo-China group as one of the units.
  - b. Inauguration of a planned economy through the co-operation between government and people, and especially the perfection of a unitary control system covering the production, distribution and consumption of important commodities.
  - c. Establishment of a financial scheme and reinforcement of banking control, directed toward the development of the nation's total economic power.
  - d. Renovation of the foreign trade policy so as to adapt it to the new world situation.
  - e. Establishment of the measures for self-sufficiency



- in the people's daily necessities especially in the principal foodstuffs.
- f. An epoch-making expansion of the vital industries — especially heavy, chemical and machine industries.
- g. An epoch-making promotion of science, and rationalization of production.
- h. Perfection and extension of the communication and transportation facilities so as to adapt them to the new developments at home and abroad.
- i. Establishment of land development plans aiming at the enhancement of the total national strength.
- j. Inauguration of permanent measures concerning the promotion of the stamina and physical strength of the nation, and especially the fundamental measures concerning the security and development of agriculture and agricultural communities.
- k. Rectification of the inequality in individual sacrifices incident to the execution of national policies; full operation of various welfare measures, and

renovation of the living mode of the nation, and the maintenance of such standard of living as will enable the nation to lead a plain, solid and vigorous life and to surmount the national crisis by persevering truly through years of hardship.

編 注 「基本國策要綱」の和文は、『日本外交文書 日中戦争』第一冊第324文書として採録。

22 昭和15年9月28日

### 外務省作成の「帝國外交方針要綱」

帝國外交方針要綱

(昭和一五、九、二八)

甲、方針

速ニ獨伊樞軸トノ間ニ世界政策ヲ基調トスル提携ヲ強化シ進ンテ日蘇國交ノ飛躍的改善調整ヲ行フト共ニ獨蘇ノ壓力ヲ利用シツツ日支全面的和平ノ實現ヲ期シ依テ以大東亞共榮圈確立ヲ促進スルモトス

如此ニシテ帝國對外体制ノ強化ニ伴ヒ英米樞軸ニ壓力ヲ加ヘツツ期ヲ見テ獨英間媾和ヲ斡旋シ更ニ日米國交ノ一大調整ヲ斷行シ以テ日獨伊蘇米英間ニ平和機構ヲ確立シ世界平和ノ再建ヲ期スルモノトス

## 乙、實施要綱

### 一、獨伊樞軸トノ提携強化

九月十八日御前會議決定及九月二十七日日獨伊三國條約ニ依ル

### 二、日蘇國交ノ調整

(一)日蘇提携ニ關スル政治的經濟的條約(不可侵條約ヲ

含ム)ヲ締結ス

(二)現行「ポーツマス」條約及日蘇間基本條約ハ之ヲ廢棄ス

(三)近東ヨリ亞細亞大陸(含支那)ニ關スル生活圈ノ協定ヲ爲ス(蒙疆及北支ニ於ケル日本ノ地位ヲ外蒙古、新疆、西藏等支那邊疆ニ於ケル蘇聯ノ地位ヲ相互ニ認容ス)

(四)北樺太利權並漁業權ノ如キ蘇聯國權ノ回復ニ同意スルノ用意ヲ整ヘ置クト共ニ之ヲ代償トシテ北樺太ノ

日本ニ對スル讓渡ニ付考量セシム

(五)「ソ」滿國境ノ無防備地帶設定及兩國領域ノ改編ニ付テモ考量ス

### 三、日支全面的和平ノ成立

別稿「支那事變急速處理方針」ニ依ル

### 四、大東亞共榮圈ノ確立

(一)日滿支三國ヲ中心トシ佛印、蘭印、海峽植民地、英領「マレー」、泰、比律賓、英領「ボルネオ」、ビルマ等ヲ含ム地域ノ政治、經濟文化ノ結合地帶ヲ構成ス

(イ)佛印 蘭印

先ツ廣汎ナル經濟協定(資源分配、共榮圈内部及外部ニ對スル貿易ノ調整、爲替及通貨協定等ヲ含ム)ノ締結ニ付努力スルト共ニ獨立ノ承認相互援助條約締結等政治的提携ヲ策ス

(ロ)泰

政治經濟軍事ニ亘リ相互援助提携強化ヲ計ル

(二)共榮圈外ニ屬スル諸國ニ對シテハ我共榮圈建設ヲ認メ之ニ協力スル様アラユル工作ヲ爲ス

### 五、英獨和平斡旋

(一) 日獨伊蘇提携ニ依ル壓力ヲ利用シツツ適當ノ機會ニ英ニ對シテハ對獨和平斡旋ヲ爲ス

(二) 英國カ我カ東亞大共榮圈ノ建設ヲ認メ之ニ協力スルニ於テハ次ノ如キ方法ニ依リ日英國交ノ調整ヲ考量スルモノトス

(イ) 濠洲新西蘭ヲ含ム英帝國ノ保全ヲ約ス

(ロ) 一般の經濟提携ヲ約ス

六、日米國交ノ調整

(一) 日獨伊蘇提携ヲ利用シテ對米毅然タル態度ヲ持シツツ先方出方如何ニ依リテハ我方ヨリ進ンテ兩國國交調整ニ付交渉ヲ開始ス

(二) 國交調整ノ方策概ネ次ノ如シ

(イ) 太平洋ヲ東西ニ分ツ勢力範圍容認ヲ前提トスル相互不可侵協定ヲ締結ス(比律賓ノ領土不可侵獨立尊重ヲモ含ム)

(ロ) 經濟提携通商増進及入國問題調整ニ關スル協定ヲ締結ス

七、世界平和ノ確立

日、獨、伊、蘇、米及英六國間ニ左記諸項ヲ包含スル

平和條約ヲ締結ス

(イ) 夫々ノ共榮圈尊重

(ロ) 領土權ノ尊重及不可侵

(ハ) 通商増進經濟協力

(ニ) 軍備ノ縮少

(ホ) 人種平等

編注 『日本外交文書 日中戦争』第一冊第330文書。

23 昭和15年10月19日 閣議決定

〔第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國竝ニ中立國ニ主要國ノ戰時對策研究ニ關スル件〕

第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國竝ニ中立國中

主要國ノ戰時對策研究ニ關スル件

昭和一五、一〇、一九 閣議決定

一、目的

第二次歐洲大戰ニ於ケル交戰國竝ニ中立國中主要國ノ戰時對策ヲ各方面ヨリ検討シ一ハ以テ我國ガ直面セル國防

國家體制ノ確立ニ必要ナル資料ヲ整備スルト共ニ、他方  
總力戰研究ノ參考ト爲サントス

## 二、研究ノ機構

研究ハ企畫院及總力戰研究所ガ中心トナリ關係各廳竝ニ  
民間諸機關ノ協力ニ依リ之ヲ行フ

## 三、研究ノ方針

(1) 研究ハ凡テ皇國トノ關聯ニ重點ヲ置キ緩急順序ヲ圖ル  
コト

(2) 研究ハ各國毎ニ行フト同時ニ有機的綜合的タラシムル  
コト

(3) 研究ニ當ツテハ精粗ヲ克ク勘案スルコト

四、本件ニ關スル經費ニ付テハ適當ナル措置ヲ講ズルモノト  
スルコト

## (參考)

### 研究要目

一、資料ノ整備竝ニ研究ニ當リテハ別紙研究ノ方針ニ從フモ  
特ニ重點ヲ置クベキ事項左ノ如シ

但シ軍事、外交ニ關スル問題ヲモ含ム

イ、帝國國策樹立ノ資タル事項

ロ、帝國ノ戰時經濟圈結成ノ資タル事項

ハ、各國ノ總力戰遂行ニ關スル事項

ニ、帝國ノ假裝敵國ノ國力判斷ニ關スル事項

二、右事項ノ研究ニ當リ各廳ノ協力ヲ求ムベキ主要ナル諸點  
左ノ如シ

(一) 第二次歐洲大戰ヲ契機トスル世界ニ於ケルブロッツク經  
濟圈相互ノ關係

(1) 歐洲經濟圈ニ關スル調査研究

イ、新マルク通貨ノ問題

ロ、産業ノ地域的分業ノ問題

ハ、地域的分業ヲ聯絡スル紐帶(交通、運輸、通商  
等)

ニ、歐洲經濟圈ヲ統制スル政治、經濟機構(被征服  
國ノ政治機構改革ノ問題ヲ含ム)

ホ、占領地ニ對スル經濟的及社會的工作

(2) 歐洲經濟圈ト米洲經濟圈トノ關係ニ關スル調査研究  
(特ニ英國敗退後ノ英米聯合ニ依ル政治形態ノ問題  
ヲ含ム)

イ、汎米主義ニ關スル問題

ロ、中南米市場爭奪問題

ハ、合衆國ヘノ金集中ヨリ生ズル經濟的影響ト世界

金融市場爭奪

ニ、米洲トノ貿易關係

(3) 歐洲經濟圈ト東亞經濟圈トノ關係ニ關スル調査研究

イ、支那ニ於ケル舊歐洲諸國ノ勢力關係ノ變化

ロ、舊歐洲諸國ニ屬セシ植民地(蘭印、佛印、印度

其ノ他)ト本國トノ關係ノ問題

ハ、東亞經濟圈ト歐洲經濟圈及米洲經濟圈ノ貿易關

係

(4) ソ聯邦經濟圈ニ關スル調査研究

イ、占領地域ヲ包含スル社會主義經濟圈形成ノ問題

(ソ聯ノ對占領地工作)

ロ、歐洲經濟圈トソ聯トノ關係(ソ聯ノ政治、經濟

的發展ヨリ生ズル歐洲經濟圈トノ對立及關聯ノ問

題)

ハ、東亞經濟圈トソ聯トノ關係(特ニソ聯ノ對第三

國植民地ニ對スル政策ヲ含ム)

ニ、米洲經濟圈トソ聯トノ關係(特ニ合衆國トノ接  
近ノ可能性)

(二) 政治機構

(1) 各國ノ軍事及產業總動員機構ノ整備ニ應シテ變更又

ハ整備擴充セラレタル政治機構及其ノ運用ノ問題

(2) 議會制度ノ改變、其レニ代ルヘキ國政審議及ヒ立法

機關

(3) 戰時特別法令及緊急法令等

(三) 經濟機構(產業總動員機構)

(1) 戰爭遂行ヲ目的トスル各國ノ產業總動員

(2) 植民地及屬領ノ產業機構ト本國ノ產業機構トノ關聯

(3) 各國ノ國土計畫ト產業總動員機構トノ關係

(四) 財政及金融

(1) 國富及國民所得ノ問題

(2) 税制及公債政策

(3) 國防費及行政費

(4) 資金統制及通貨制度ノ問題(特ニ貯蓄獎勵及資本供

給力ノ問題)

(5) 金融機關ニ對スル統制

(6) 資金計畫、物動計畫、財政計畫トノ調整方策  
(五) 生産及配給

(1) 國防資源ノ賦存狀況ト不足資源ノ填補方策(特ニ代替資源ノ問題)

(2) 生産擴充ノ方策

(3) 配給ノ統制

(4) 轉失業對策

(六) 貿易

(1) 貿易及貿易管理

(2) 爲替及爲替管理

(3) 對第三國貿易及植民地貿易

(4) 貿易攪亂及貿易封鎖

(七) 交通

(1) 運輸交通ノ統制

(2) 特ニ船舶管理及海運對策

(3) 戰爭ニ因ル破壊及補充狀況

(八) 物價

(1) 生産擴充並ニ國民生活安定施策ト物價對策

(2) 物價統制ト經濟組織トノ關係

(3) 物價統制違反ニ對スル處罰

(4) 海外物價ト國內物價トノ調整

(5) 物價ノ變動ト戰時國民生活ノ變化及其ノ對策

(九) 人の資源

(1) 人口増加或ハ減少ト其ノ對策

(2) 各層各階級ノ人口分布ノ變化ト對策(特ニ兵力ト軍需產業人口ノ構成内容及給源)

(3) 勞働力動員ノ問題

(4) 職業教育、技術教育、再教育、熟練工養成等ノ問題

(十) 宣傳及謀略

(1) 對內宣傳

(2) 對外宣傳及謀略

右研究ノ期間、内容、取扱フベキ資源等ニ關スル具体的問題ハ各廳ト別途協議ス。尙外務省、陸海軍省、拓務省ニ對シテハ右ノ外一般的ニ協力ヲ要請ス



24  
昭和15年11月13日

南洋局新設に関する外務省発表

南洋局新設に關する外務省發表

昭和十五年十一月十三日

一、南洋局新設理由

支那事變及歐洲戰爭の結果我國と南洋との關係は益々重大性を増し來り殊に最近に至り日、タイ友好親條約の締結、皇軍の佛印進駐、東印度及印度支那に對する使節派遣等の新事態を見るに至り、日本と南洋との關係は今後益々進展するに至るであらうことは明である。

斯の如き南洋に關する新事態に直面し、今後の國際情勢に對處する爲、今般外務省に南洋局を設け我國南洋政策遂行上遺憾なきを期することとなつた次第である。

二、南洋局所管事項

南洋に關しては從來歐亞局第三課に於て東印度、印度支那、馬來、北ボルネオ、濠洲、新西蘭及大洋洲諸島に關する事務を主管しタイ國、比律賓及緬甸に關する事務は他の局課に於て處理することとなつて居たか之等の地域に關する事務は南洋政策の遂行上統合處理するを適當とするを以て、南洋局に於て敍上の各地域の事務を統合處理せしむることとし、加ふるに、南極地方に關する事務

をも掌らせることとしたのである。

三、南洋局の機構

南洋局には第一課及第二課を置くこととなつたか各課の處理すべき地域は左の通りである。

第一課

東印度諸島、比律賓群島、濠洲、新西蘭、大洋洲英領諸島及南極地方

第二課

タイ國、印度支那、緬甸、馬來、北ボルネオ、大洋洲佛領諸島

~~~~~

25 昭和16年11月17日

第七十七帝國議會における東郷外相演説

臨時議會ニ於ケル東郷外相演説

(十一月十七日)

不肖今回圖ラズモ、帝國ノ外政擔當ノ重責ヲ負フコトト相成リマシテ、本日茲ニ帝國政府ノ外交方針ニ付聊カ所見ヲ申述ブルノ機會ヲ得マシタコトハ私ノ最モ欣幸トスル所

デアリマス。

帝國ハ東亞新秩序建設ノ爲ノ征戰ニ從事スルコト既ニ四年ヲ閱シ、舉國一致時艱ノ克服ニ邁進シツツアルノデアリマス。私ハ先ヅ御稜威ノ下ニ前線ニ奮闘スル我陸海軍將兵ノ武運長久ヲ祈願スルト共ニ幾多ノ尊キ英靈ニ對シ敬弔ノ意ヲ表スルモデアリマス。

帝國ノ對外國策ノ基本方針ガ東亞ノ天地ニ、正義ニ立脚スル平和ヲ確立シ、以テ世界人類ノ福祉増進ニ寄與セントスルニ存ズルコトハ、更メテ多言ヲ要セヌ所デアリマス。帝國ガ明治維新以來駸々乎トシテ國運ノ伸張ヲ成シ遂ゲマシタノモ、實ニ此ノ大義ニ立脚セル不斷ノ努力ノ賜ニ外ナリマセヌ。顧ミマスルニ過去七十餘年間帝國ハ幾度カ國難ヲ打開シテマキリマシタ。就中日露ノ戰役ハ東亞ノ平和ニ對スル障害ヲ排除セントスル舉國決死ノ大事業デアリ、爾來帝國ハ東亞ニ於ケル安定勢力トシテノ歩武ヲ進メテ來タノデアリマスルガ、今ヤ東亞ノ天地ニ、正義ニ基ク新秩序ヲ確立シ、以テ世界平和ニ貢獻セントスルノ大業ニ邁進シツツアルノデアリマス。

幸ニシテ獨伊兩國ハ、帝國ト其ノ意圖ヲ同ウシ曩ニ三國

條約ノ成立ヲ見タノデアリマシテ、同條約ガ過去一ケ年餘ノ期間ニ於テモ、既ニ其ノ使命タル東亞及歐洲ノ新秩序ノ建設及戰爭ノ擴大防止ニ對シ大ナル貢獻ヲ爲シ來リマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス。

滿洲帝國ハ建國以來國礎愈々固キヲ加ヘ同國ヲ承認致シマシタ國ハ既ニ二十三ヶ國ノ多キニ達シ、其ノ國際的地位モ日ヲ逐ウテ向上シ國運隆盛ニ赴キツツアリマス。支那ニ於キマシテハ帝國ハ重慶政權屈服ノ爲武力戰ヲ敢行シツツアルノデアリマスガ、帝國ト中華民國トノ提携ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ舉ゲントスルハ支那事變ニ處スル帝國ノ根本方針デアリマス。帝國ト國民政府トノ間ニハ曩ニ日華間ノ新關係ヲ律スル基本條約ノ成立ヲ見タノデアリマスルガ、帝國政府ハ此ノ上トモ同政府ノ強化ニ協力スル決心デアリマス。

支那事變ノ處理ト共ニ帝國ノ重大關心事ハ、北方及南洋方面ニ存スルノデアリマス。曩ニ歐洲戰爭勃發致シマスヤ、帝國ハ東亞全局ノ平和維持ノ見地ヨリ禍亂ノ東方ニ波及シ來ルコトヲ防止スル爲、凡有ル努力ヲ爲シ來ツタノデアリマスルガ、本年四月締結セラレマシタ日蘇中立條約モ亦右

ノ方針ヨリ出デテ、北方安全ヲ確保セントスルモノデアリマス。其後獨逸ト蘇聯邦トノ間ニ戰禍ノ發生ヲ見ルニ至リマシタケレドモ、政府ハ依然北方ノ安全ヲ確保セムトスルノ態度ヲ堅持シ來レルモノデアリマシテ、畢竟我方ニ於テハ北方ニ於テ、平和ノ攪亂セラルルガ如キ素因構成セラレ、又ハ帝國ノ權益ガ脅威セラルルガ如キ事態ノ發生スルコトニ對シテハ飽迄之ヲ防止セントスルモノデアリマス。

南方ニ關シマシテハ帝國政府ハ曩ニ泰、佛印國境紛爭ノ調停ヲナシ、又佛印トノ間ニ政治的、經濟的緊密關係ヲ設定シ、次デ佛印ヲ繞ル國際情勢ガ佛印ノ安全惹テ東亞ノ靜謐、帝國ノ安全ニ重大ナル脅威ヲ及ボサントスル形勢トナリマスルヤ、之ニ對處センガ爲日、佛印共同防衛ニ關スル議定書ヲ締結シ、更ニ芳澤大使ヲ同地ニ派遣致シマシテ緊密關係ノ増進ニ努メ、又泰國トノ間ニモ經濟的關係ヲ緊密ニスルト共ニ大使ヲ交換シテ兩國提携ヲ益々堅クシテ居ルデアリマス。然ルニ第三國側ヨリ恰モ帝國ガ此等方面ニ侵略的意圖ヲ有スルガ如キ惡意ノ宣傳ガ行ハルハ寔ニ心外トスル所デアリマシテ、私ハ東亞ニ位スル諸國諸民族ガ能ク帝國ノ眞意ヲ了得シ、新秩序建設ノ爲帝國ト協力スル

ニ至ルコトヲ確信シテ疑ハザルモノデアリマス。

以上ノ如ク帝國ハ一意支那事變處理ト東亞ニ於ケル新秩序ノ確立ニ眞摯ナル努力ヲ傾注シテ居ルノデアリマスルガ、曩ニ述ベマシタ共同防衛ニ關スル議定書ニ基キ本年夏我軍ガ南部佛印ニ進駐致シマスルヤ、英米兩國ハ右ヲ以テ自國領域ニ對スル脅威トナシ、兩國ニ於ケル我資産ヲ凍結シ以テ事實上經濟斷交ニ等シキ措置ニ出テ、英國各自治領植民地悉ク之ニ倣ヒ、蘭印亦之ニ和シタノデアリマスルガ、英米ハ更ニ濠洲、蘭印、重慶ヲ誘ツテ、對日包圍ノ體勢ヲモ取ルニ至リマシタ。

斯クノ如クニシテ、帝國ヲ繞ル國際情勢ハ一日ト緊迫ノ度ヲ加ヘ來ツタノデアリマスルガ、英米ノ我方ニ對スル此ノ種壓迫ハ事重大デアリマシテ、帝國ノ生存ニモ甚大ナル影響アル次第デアリマス。茲ニ各方面ノ注意ヲ願ヒ度イノハ斯ル情勢ナルニモ拘ラズ從來帝國政府ガ太平洋、惹テハ世界全局ニ於ケル平和ヲ維持シ、最惡ノ事態ヲ回避セントノ崇高ナル動機ヨリ局面ノ打開ノ爲最善ノ努力ヲ傾注シ來レルコトデアリマス。

抑々支那事變勃發以來、日米關係ハ惡化ノ一路ヲ辿リ逐

次其勢ヲ加へ來リ、之ヲ放置致シテ置キマスナラバ勢ノ趨ク所最惡ノ事態ニ立至ルコトナキヲ保シ難キ情勢ト相成リマシタ。若シ斯ノ如キ事態トモナラバ太平洋ヲ圍ル諸國ニ對シテノミナラズ、全世界人類ニ大ナル慘禍ヲ及ボスモノデアリマシテ誠ニ寒心ニ堪ヘヌ所デアリマス。

仍テ平和ヲ念トスル帝國ハ此處ニ思フ致シマシテ、本年四月以來米國政府トノ間ニ日米問題ノ根本的調整ニ關スル話合ヲ行ヒ來ツタノデアリマスルガ、前內閣ニ於テハ今夏後ニ於ケル情勢ノ逼迫ニモ顧ミ、銳意日米交渉ノ成立ニ努力致シマシタニモ拘ハラズ、彼我意見ノ一致ヲ見ルニ至ラナカツタノデアリマス。

現內閣ニ於キマシテモ國際危局ヲ救済シ太平洋ノ平和ヲ維持セムガ爲、右日米會談ヲ繼續スルニ決定シ爾來交渉中デアリマス。其ノ内容ニ就イテハ遺憾乍ラ今茲ニ詳細申上グル自由ヲ有シマセヌガ、若シ夫レ米國政府力、帝國政府ト同様、眞ニ世界ノ平和ヲ顧念スルトトモニ帝國ノ自然的要求ト東亞ニ於ケル帝國ノ地位トヲ了解シ、且又東亞ニ於ケル事態ニ付現實ニ即スル考慮ヲ加ヘマスルニ於テハ本件交渉ノ妥結モ決シテ不可能デハナイト考ヘル次第デアリマ

ス。而モ彼我ノ見解ハ過去半歲餘ニ互ル話合ニ依リ概ネ明白トナツテ居リマスルノデ、技術的方面ヨリ見マスルモ今後ノ交渉ニ長時間ヲ費スノ要ナキコトハ米國側ニモ明ラカデアルト信ズルノデアリマス。

事態斯クノ如クデアリマシテ、帝國政府ニ於テハ本交渉ノ成立ニ向ツテ最善ノ努力ヲ傾注シテ居ル次第デアリマスルガ、我方ノ協調的態度ニモ自ラ限度ガアリ、事苟モ帝國ノ生存ヲ脅カシ又ハ大國トシテノ權威ヲ毀損スルコトナルガ如キ場合ニハ、飽迄毅然タル態度ヲ以テ之ヲ排除セネバナラスコトハ勿論デアリマシテ、私ト致シマシテハ此點ニ付キマシテハ、十分ノ決意ヲ以テ交渉ニ臨ンデ居ル次第デアリマス。

今ヤ帝國ハ未曾有ノ難局ニ遭逢シ、一致團結之ガ打開ニ邁進スルノ要アル次第デアリマス。元來軍事ト外交トハ一體デアリ、內政ト外交亦表裏ノ關係ニアルノデアリマスルガ、官民一致國家ノ總力ヲ擧ゲテ事ニ當ルノ要アルヲ痛感スルコト、今日程切實ナルモノハナイノデアリマス。

以上率直ニ本大臣ノ所見ヲ披瀝致シマシテ、茲ニ一億同胞ノ支援ト協力トヲ切ニ冀望スルモノデアリマス。